

実践・演習 1～5・講義 2

11:15～17:15 (300)

9:00～11:15 (120)

---

# 支援手順書の作成プロセス

# この時間で学びたいこと

- これまで行動障害が現れやすい人たちへの支援においては、  
「障害特性に合わせた支援が必要であること」  
「支援者が統一した支援をすること」  
が大切であることを確認してきました。
- この時間では、支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書の作成方法を学びます。
- また、PDCAサイクルの流れで支援を改善していくために必要な、記録に基づく支援手順書の修正方法を学びます。

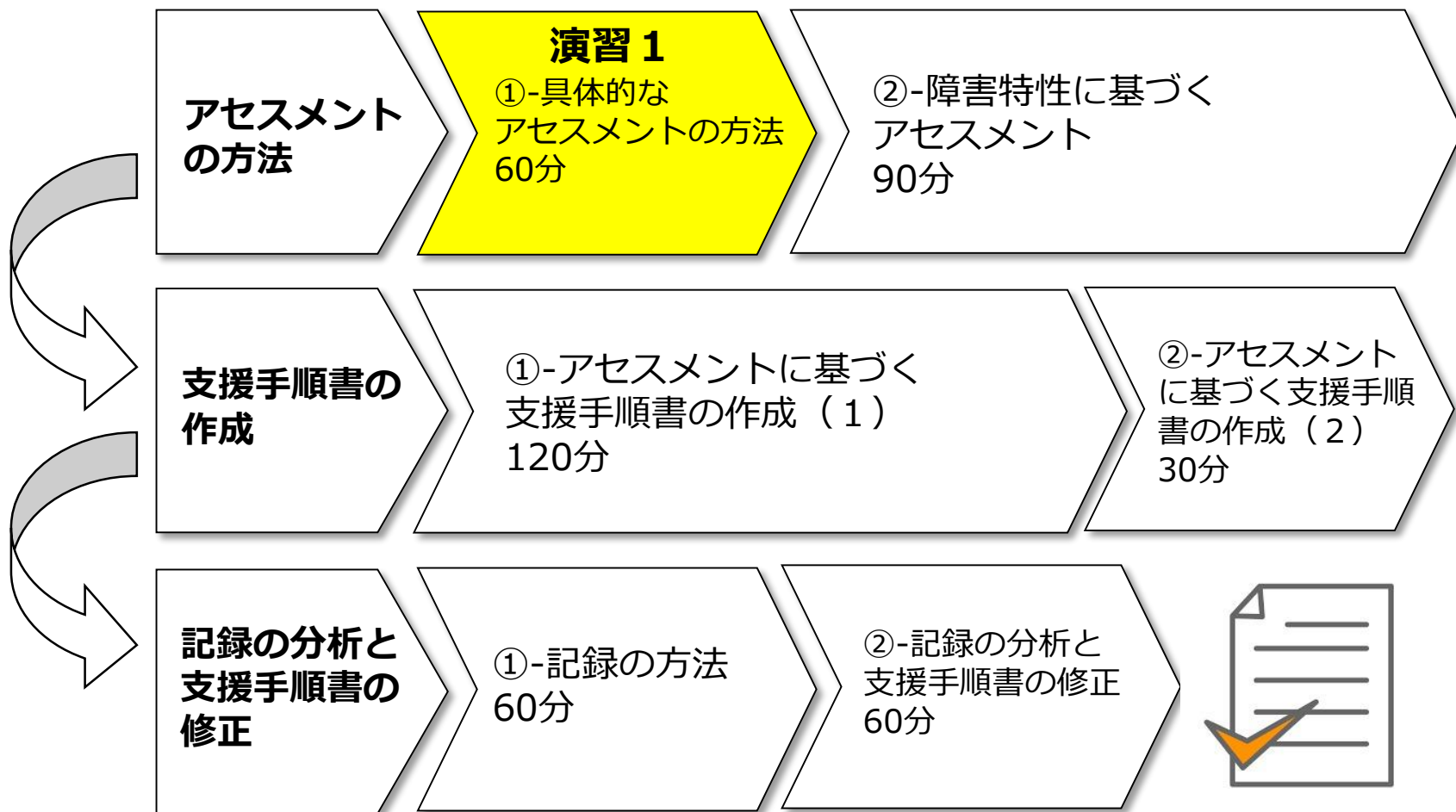
# 演習の流れ

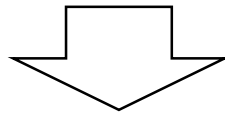
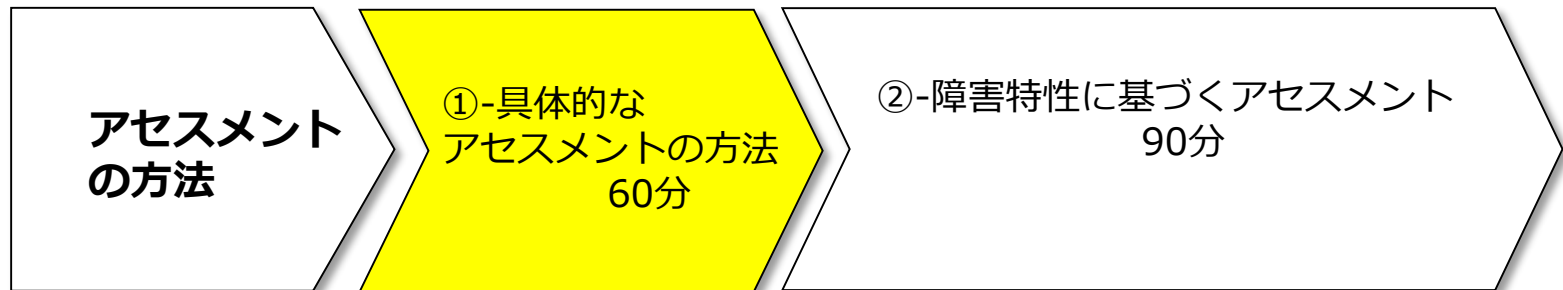


# 演習 1 アセスメントの方法

## ①-具体的なアセスメントの方法

# 演習の流れ





- i) 事例の紹介 (STさんの外出)
- ii) 基本情報の入手  
「基本情報シート」について
- iii) インフォーマルアセスメント  
「特性確認シート」とは  
「特性確認シート」の作成

# i) 事例の紹介 STさんの外出

STさんは、グループホームに住む重度知的障害を伴う、自閉スペクトラム症の男性です。

平日はグループホームから生活介護事業所に通い、休日は週1回、行動援護でヘルパーさんと外出しています。

STさんのある日の外出風景を見ながら、STさんが安心して外出ができる支援を考えてみましょう。

# STさんの外出場面

ハンバーガーショップへ行こう！

① 予定を確認する	ヘルパーさんが、STさんに今日の予定を伝えます。
② 移動する	グループホームを出てハンバーガーショップに向かいます。
③ 購入する	ハンバーガーショップに着き、食べるものを注文し購入します。
④ 食べる	席について食べます。
⑤ 片づける	食べたものを片づけます。
⑥ 帰宅する	グループホームに戻ります。



# ある日の情報

## 「その場にいる人」

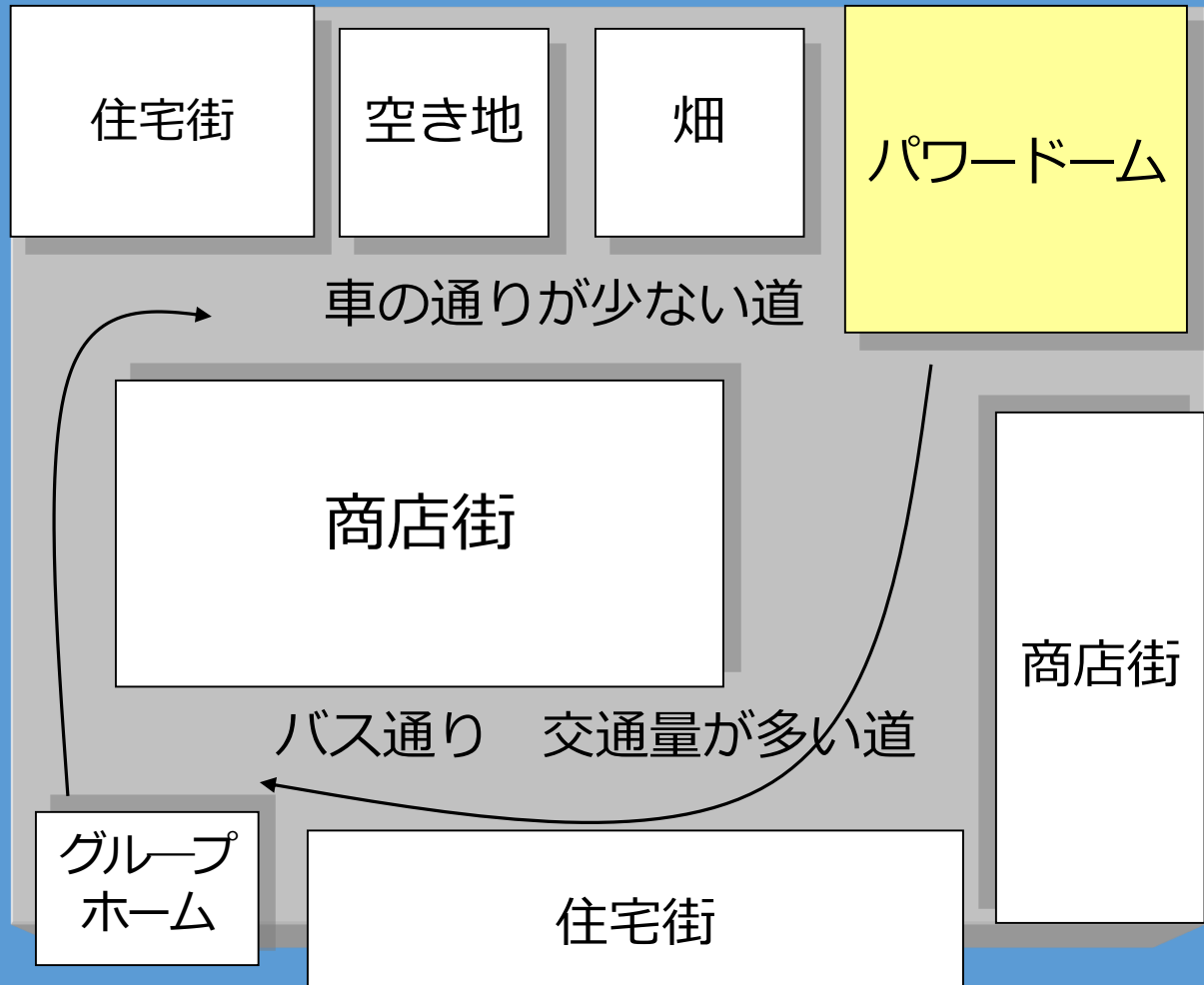
- ① S Tさん（利用者）
- ② ヘルパー：カメラマンの次に頻度の高いヘルパー（1回/月）
- ③ カメラマン：普段最も支援頻度の高いヘルパー（1回/週）
- ④ お客さん：初対面の見学者
- ⑤ 日中活動事業所スタッフ：  
グループホームに来ることは、まれ  
外出同行も、まれ

※画面ではわかりにくいですが④⑤も少し後ろから同行しています。

# グループホームからパワードームの道順

所要時間  
片道徒歩  
10分程度

ハンバーガー  
買いに  
行きまーす！



# 動画の視聴

# ii) 基本情報の入手

## 「基本情報シート」について

それぞれの事業所にある  
基本情報を記載したシート。  
フェイスシート  
プロフィールシート  
聞き取りシート

など。

参考シート  
「STさん基本情報シート」A4

※この演習では、STさんについて  
分かる情報のみ記入しています。

基本情報シート 記入日：○○○○年○○月○○日/記入者○○○○

名前	S・T様				性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女			
住所	〒○○○-○○○ ○○県○○市○○町○○○ グループホーム○○○○○○○○				生年月日	○○○○年○○月○○日(○○歳)			
電話	自宅電話	○○○-○○○-○○○○(グループホーム)			携帯	なし			
	自宅Fax	○○○-○○○-○○○○(グループホーム)			その他				
緊急連絡先	① ○○○-○○○-○○○○(続柄 後見人)				② (続柄)				
家族構成	氏名	続柄	職業	同居/別居	氏名	続柄	職業	同居/別居	
生活歴 (7歳・現在)	年	月	内容(所属・出来事など)		年	月	内容(所属・出来事など)		
	○○	○○	○○特別支援学校高等部卒業						
	○○	○○	生活介護事業所○○(現在も利用中)						
	○○	○○	グループホーム○○○○○○○○○入居						
障害の程度	知的障害	診断名		<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(重度知的障害 自閉スペクトラム症)					
	精神障害	手帳		<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> 療育手帳 <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B					
	身体障害	その他		<input type="checkbox"/> 精神保健福祉手帳 <input type="checkbox"/> 1級 <input type="checkbox"/> 2級 <input type="checkbox"/> 3級					
	発達障害			<input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 種 級					
	高次脳機能障害								
医療	主に関わる医療機関	病院・医院名	診療科名	担当医師	病名	利用頻度			
医療	服薬 (名称・量)	朝			服前				
		昼			頓服				
		夕			その他				
発作	有無	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(頻度: 週・月・年に 回程度)							
	原因・きっかけ								
	対応								
サービスの利用	障害福祉サービス受給資格	受給者証番号		支給市町村	○○市				
	障害程度区分	<input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> 区分1 <input type="checkbox"/> 区分2 <input type="checkbox"/> 区分3 <input type="checkbox"/> 区分4 <input type="checkbox"/> 区分5 <input type="checkbox"/> 区分6							
	介護保険	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 要支援(1・2) <input type="checkbox"/> 要介護(1・2・3・4・5)							
	利用中のサービス	グループホーム○○○○○○○○○ 生活介護事業所○○(週5日) ヘルパーステーション○○○(行動援護 週1回)							
収入	就労収入	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 月額 約 8,000 円							
	年金	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> 障害基礎年金 1級 <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 級							
	手当	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 特別障害者手当 <input type="checkbox"/> 障害児福祉手当 <input type="checkbox"/> 特別児童扶養手当 <input type="checkbox"/> 児童扶養手当 <input type="checkbox"/> 児童手当 <input type="checkbox"/> その他( )							
	その他	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他( )							

### **iii) インフォーマルアセスメント**

# アセスメント

- ・ アセスメントとは？  
「評価」や「実態把握」
- ・ 基本的なアセスメント情報  
「医学的な診断」「障害支援区分」「療育手帳」など

実際の支援には、  
支援の内容に直結  
する詳しい情報が  
必要

「フォーマルなアセスメント」  
・ 知能検査、発達検査など標準化された検査

「インフォーマルなアセスメント」  
・ 日常の観察やインタビューによって得られる情報

※この研修では、「特性確認シート」を使います

# 「特性確認シート」とは

参考シート「見本用特性確認シート」A3

支援者や保護者などが、普段の観察により、本人の自閉スペクトラム症の障害特性について確認をする、インフォーマルなアセスメントシート

# 「特性確認シート」

特性確認シート

診断の基準に関する項目		[1]診断の基準に関する行動の特性 現れている行動の例	具体的な行動	[2]その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶・注意・集中・運動・姿勢などの特性も含む)	[3]支援のアイデア
人や集団との関係に難しさがある		人とのかかわりが一方的である 相手の気持ちに関係なく行動する 一人で行くことを好む 同世代の人と上手に付き合うことができない 人が多いところが苦手である 複数の人といっしょに活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい		見えないものの理解が難しい 曖昧なものの理解が苦手である 視線や雰囲気から読みとるのは苦手である 表情や声質など全体的な理解が苦手である 文字や数等、示された情報を理解することができない 情報の多いものやその処理が苦手である どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 今あるいはさっきしてていいことを忘れてしまう 一緒に同じものを見て気持ちを通わせることが難しい 共感が少ない 気になることから抜けられない ものごとの関連性がわからない 刺激に影響されやすい 運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解しにくい 手帳が思い浮かばない ひとつの活動に集中しきれない その他	生かせる強みがある(☆欄から)  自分と周囲との関係や感情などを見える形で伝える 自分の心と体を休められる場所を用意する 「いつ」「どこで」「何を」の情報を覚えてわかるように伝える 着目すべき場所を強調する 一つの場所を多目的に使わないようにする 「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何をやる」をわかるように工夫する 困ったときに誰にどう伝えたらいいかを具体的に伝える 環境を整え、刺激を少なくする 活動の量やシグなどの工夫をする 椅子や材料などの配置を工夫する その他
	状況の理解が難しい	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等)に配慮した行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしてしまう			
理解が難しい		言語で指示をしてもすぐに行動できない 指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを読み取ることが苦手である 特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でないとわからない短い言葉ならわかることもある 相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 言葉の意味が曖昧(もよお、ゆづり、なんどなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 抽象的や曖昧(もよお、ゆづり、なんどなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない 字義通りの理解(言外の意味を把握できない)		見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音声言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをするときの意味がわからない 興味関心が強くて狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他	生かせる強みがある(☆欄から)  本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する 伝える量に配慮する 伝える速さを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする だから、どうやって伝えるかを具体的に示す 忘れたときに思い出すための工夫を用意する 会話を見えるツールで支援する 本人の処理速度に合わせた会話の場を設定する 会話の場の人数などにも配慮する その他
	発信が難しい	行動(かんしやく・バニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える コミュニケーションの台詞は言葉でも伝える手段で言葉を使えない 自分にかかわらない言い方で伝えることがある(構りた(なると)りんご)と言うなど) 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語) この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文)使えても動詞(が)のを間違える			
やり取りが難しい		視線が合わない アイコンタクトが取れない やりとりができない かみあわない やりとりが読めない 唐突に話出す 自分が知っていることは相手も知っている前提で話することができない 理解と発信の状態像のアンバランスが大きい			
	変化への対応困難	自分のルールを変えられることに抵抗がある 必要があっても変更できない 日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更に対応が弱い 活動の途中で止められると対応できない 新規場面(初めてのことが)が苦手である 段取りを組んだり、優先順位をつけることが苦手である		自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい 変更があることの理解が難しい 興味関心が強くて狭い 集中しすぎると注意の移動が難しい その都度判断するのが苦手である 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である 少しのことで大きな不安が生じる 目から入った記憶に強く影響される 手がかりが変わるとわからなくなる やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう フラスコやバックと思われる混乱がある その他	生かせる強みがある(☆欄から)  最初から正しい方法で学べる準備をする 予告を視覚的にし、成功につながる手がかりを提供する 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする 姿勢の使い方を見直し 順番の提示なのか活動の選択なのかを明確にする 環境を整え、刺激を少なくする 本人の興味関心に合わせて提示(ごほうびの活用)を行う ごほうび等を活用して活動に意味を持たせる 変わらないものは習慣化できるようにする 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする その他
想像力の特性	物の一部に対する強い興味	構図、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返し再生などの一部分に執着する 必要があっても、自分の興味のないものに関心を示すことができない 細かいことが気になってひっかかる 声をかけても聞こえていないようにふるまうことがある			
	常回・反復的な行動	同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある 同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す 長時間続ける 自分なりの手順、日課、道順などの自分ルールが多くある			
感覚の特性	感覚が敏感・鈍感	聴覚/耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがるなど 視覚/眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを目深にかぶる、キラキラに没頭するなど 触覚/同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗濯、散髪などで激しく抵抗するなど 嗅覚(臭覚)/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど 味覚/著しい偏食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど 臭覚/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど その他/目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど その他/体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど		感覚に過敏がある 感覚に鈍感がある 感覚の入出力のコントロールが難しい 刺激を補うための自己刺激行動がある 疲労やストレスが感覚に影響を与えている その他	生かせる強みがある(☆欄から)  必要な刺激は保証する 苦手を刺激を少なくするための配慮(イヤマフ・サングラスなど)をする 他者から作用をするなど、強く危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を講じる 避難場所の確保を行う その他
	☆得意なこと・強み・できること・好きなことなど				



# 「特性確認シート」

特性確認シート

【1】診断の基準に「関係する行動の特性」		【2】その行動の背景にある要因(1)で考えられること (認知・記憶・注意・集中・運動・姿勢などの特性も含む)		【3】支援のアイデア
診断の基準に「関係する項目」	現れている行動の例	具体的な行動		
<b>社会的特性</b> 人とかかわりが一方的である 相手の気持ちに關係なく行動する 一人であることが好き 同世代の人と上手に付き合うことができない 人が多いところが苦手である 複数の人といっしょに活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい 年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等状に配慮した)行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしてみよう	見えないものの理解が難しい 曖昧なものの理解が苦手である 視線や雰囲気から読みとるのは苦手である 表情や声質など全体的な理解が苦手である 文字や数字、示された情報を理解することができない 情報の多いものやその処理が苦手である どこで活動したとしいかわからない 今あるいはさきましていたことを忘れてしまう 一緒に同じものを見て気持ちを通わせることが難しい 気にならなから抜けられない ものこの関連性がわからない 刺激に影響されやすい 運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解にない 手癖が悪い ひどい活動に集中しきれない その他	生かせる強みがある(☆欄から) 自分と周囲との関係や感情などを見える形で伝える 自分の心と体を休められる場所を用意する 「いつどこで」何をの情報を捉えてわかるように伝える 着目すべき場所を強調する 一つの場所を多目的に使わないようにする 「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何をやる」をわかるように工夫する 困ったときに誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える 環境を整え、刺激を少なくする 活動の量やジグなどの工夫をする 椅子や材料などの配置を工夫する その他		
<b>コミュニケーションの特性</b> 言語で指示をしてもすぐに行動できない 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを捉えることが苦手である 短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある) 相手の言葉をそのままだと聞き取ることがある(反響音、エコーリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的で曖昧な(ちよっと、ゆっぴり、なんとなん、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、 行動(かんしゃく、 コマニヤルや 自分にかかわる 言葉の特定の 返事が相手の言葉の繰り返しのなりや この場所ではこの言葉、この人はこの言葉とお決まりの言葉が多い 文法が使えない(単語・二語文) / 使えても動詞(動詞)に注意する	見えないものの理解が難しい ものこの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に注目してしまふ 刺激に影響されやすい 集中しすぎる(集中がある(狭、声など) 一緒に何をしたいかわからない どういう理由で やり方が変わるとうわからなくなる 興味関心が強い 相手の手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解にない 手癖が悪い ひどい活動に集中しきれない その他	生かせる強みがある(☆欄から) 本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する 伝える量を配慮する 伝える速さを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする だれに、どう、 忘れたときには 会話も見え 本人のペースで話を進めさせる 会話のペースを合わせる その他		
<b>想像力の特性</b> 自分のルールを変えられることに抵抗がある 日課が変わる、担当が変わる、場所が変わるなどの変更が頻りに 活動の途中で止められると対応できない 新規場面(初めてのこと)が苦手である 段取りを組んだり、優先順位をつけることが苦手である 構圖、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返し再生などの一部分に執着する 必要があっても、自分の興味のないものに関心を示すことができない 細かいことが気になってひっかかる 声をかけても聞かえていないようにふるまうことがある 同じ場所に置きたい、同じ角度にしたなどのこだわりがある 同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す 長時間続ける 自分なりの手順、日課、連動などの自分ルールが多くある	見えないものの理解が難しい ものこの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に注目してしまふ 刺激に影響されやすい 集中しすぎる(集中がある(狭、声など) 一緒に何をしたいかわからない どういう理由で やり方が変わるとうわからなくなる 興味関心が強い 相手の手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解にない 手癖が悪い ひどい活動に集中しきれない その他	生かせる強みがある(☆欄から) 最初から正しい方法でやる準備をする 予定を現実的にやり、成功につながる手がかりを提供する 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする 変更の伝え方を統一する 順番の提示なので活動の選択のなかを明確にする 環境を整え、刺激を少なくする 本人の興味関心に合わせた提示(ごほうびの活用)を行う ごほうび等を活用して活動に興味をもたせる 変わらないものは習慣化できるようにする 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする その他		
<b>感覚の特性</b> 聴覚/耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがるなど 視覚/眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを目深にかぶる、キラキラに没頭するなど 触覚/同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、散髪などで激しく抵抗するなど 嗅覚(臭覚)/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど 味覚/著しい偏食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど 臭覚/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど その他/目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど その他/体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど	感覚に過敏がある 感覚に鈍麻がある 感覚の入出力のコントロールが難しい 純粋さを補うための自己刺激行動がある 疲労やストレスが感覚に影響を与えている その他	生かせる強みがある(☆欄から) 必要な刺激は保証する 苦手な刺激を少なくするための配慮(イヤーマフ・サングラスなど)をする 他に刺激で代用するなど、強/弱な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を講じる 避難場所の確保を行う その他		
☆得意なこと・強み・ できること・好きなことなど	<b>支援に活用できそうな本人の「強み」をピックアップ</b>			

ここに書かれている  
様な行動をヒントに  
【1】

どんなことに  
困っている  
のかを探り  
【2】

必要な支援や  
配慮を整えます  
【3】

# 「特性確認シート」の作成



まずは講師がやってみます

STさんの外出場面①「予定を確認する」を使って、アセスメントを行います。

1. 「予定を確認する」場面の動画を視聴した後、「現れている行動の例」をチェック☑し、「具体的な行動」を記入する。
2. 「その行動の背景にある要因として考えられること」をチェックする。
3. 有効だと考えられる「支援のアイデア」をチェックする。
4. 支援に活用できそうな本人の「強み」をピックアップする。

- 1. 「予定を確認する」場面の動画を視聴し、  
「現れている行動の例」をチェック✓し、  
「具体的な行動」を記入します。**

# 「現れている行動の例」をチェック✓します

		【1】診断の基準に関する行動の特性			
診断の基準に関する項目		現れている行動の例	<input checked="" type="checkbox"/>	具体的な行動	
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動できない／指示されたことと違うことをする	レ		
		決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある			
		相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい			
		相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する			
		短い言葉でないといけない(短い言葉ならわかることもある)			
		相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコラリア)	レ		
		言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)			
		抽象的で曖昧な(ちょっと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい			
	冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)				
	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える			
		コマーシャルやアニメの台詞は言っても伝える手段で言葉を使えない			
		自分にしかわからない言い方で伝えることがある(帰りたくなると「りんご」と言うなど)			
		言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ)			
		返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)	レ		
		この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い			
	やり取りが難しい	文法が使えない(単語・二語文)／使っても助詞(がのにを)を間違える			
		視線が合わない／アイコンタクトが取れない	レ		
		やりとりができない／かみあわない	レ		
		やりとりが続かない			
		唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をするができない			
		理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい			

# 「具体的な行動」を記入します

まず、行動が現れている時の、「場面」を書き出します。

【1】診断の基準に關係する行動の特性			
診断の基準に關係する項目	現れている行動の例	<input checked="" type="checkbox"/>	具体的な行動
理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動できない／指示されたことと違うことをする	レ	「散歩に行って、パワードームに行きます」に対して
	決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある		て
	相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい		→
	相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する		
	短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある)		
	相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコリア)	レ	「パワードーム知っていますか？」に対して
	言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)		→
	抽象的で曖昧な(ちょっと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい		
	冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)		→
コミュニケーションの特性 発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える		
	コマーシャルやアニメの台詞は言えても伝える手段で言葉を使えない		
	自分にしかわからない言い方で伝えることがある(帰りたくなると「りんご」と言うなど)		
	言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ)		
	返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)	レ	
	この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い		
	文法が使えない(単語・二語文)／使えても助詞(がのにを)を間違える		
やり取りが難しい	視線が合わない／アイコンタクトが取れない	レ	
	やりとりができない／かみあわない	レ	ヘルパーさんが顔をのぞいても
	やりとりが続かない		→
	唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をすることができない		ヘルパーさんが懸命に話しかけても
	理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい		→

# 「具体的な行動」を記入します

次に、行動が現れている時の、“場面”に対するSTさんの「行動」や「反応」を書きます。

【1】診断の基準に関する行動の特性			
診断の基準に関する項目	現れている行動の例	☑	具体的な行動
理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動できない／指示されたことと違うことをする	レ	「散歩に行って、パワードームに行きます」に対して → <b>体を揺らしている。</b>
	決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある		
	相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい		「パワードーム知っていますか？」に対して → <b>「パワードーム」と言う。</b>
	相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する		
	短い言葉でないといけない(短い言葉ならわかることもある)		レ 「パワードームでおやつ食べます」に対して → <b>「オヤツ、オヤツタベマ」と言う。</b>
	相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコラリア)		
	言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)		「おやつ食べますか」という質問に対して、 → <b>「オヤツター」と言う。</b>
	抽象的で曖昧な(ちょっと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい		
	冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)		
コミュニケーションの特性 発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える		
	コマーシャルやアニメの台詞は言えても伝える手段で言葉を使えない		
	自分にしかわからない言い方で伝えることがある(帰りたくなると「りんご」と言うなど)		
	言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ)		
	返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)	レ	
	この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い		
	文法が使えない(単語・二語文)／使えても助詞(がのにを)を間違える		
やり取りが難しい	視線が合わない／アイコンタクトが取れない	レ	ヘルパーさんが顔をのぞいても → <b>視線を合わせない。</b>
	やりとりができない／かみあわない	レ	
	やりとりが続かない		ヘルパーさんが懸命に話しかけても → <b>やりとりができない。</b>
	唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をするができない		
	理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい		

# 「具体的な行動」を記入します

最後に、文章にします。

		【1】診断の基準に関係する行動の特性			
診断の基準に関係する項目	現れている行動の例	☑	具体的な行動		
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動できない／指示されたことと違うことをする	レ	ヘルパーから質問されて体を揺らしている。	
		決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある			
		相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい			
		相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する			
		短い言葉でないといけない(短い言葉ならわかることもある)			
		相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコラリア)	レ		ヘルパーの質問にエコラリアで答えている。
		言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)			
		抽象的で曖昧な(ちょっと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい			
		冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)			
	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える		ヘルパーの質問にエコラリアで答えている。	
		コマーシャルやアニメの台詞は言えても伝える手段で言葉を使えない			
		自分にしかわからない言い方で伝えることがある(帰りたくなると「りんご」と言うなど)			
		言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ)			
		返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)	レ		
		この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い			
		文法が使えない(単語・二語文)／使えても助詞(がのにを)を間違える			
	やり取りが難しい	視線が合わない／アイコンタクトが取れない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。 ヘルパーが懸命に話しかけてもやりとりができない。	
		やりとりができない／かみあわない	レ		
		やりとりが続かない			
		唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をするができない			
		理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい			

**2. 「その行動の背景にある要因として考えられること」をチェック  
✓します。**



# 行動の背景にある要因を考えます

【1】診断の基準に関する行動の特性		【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶／注意・集中／運動・姿勢などの特性も含む)
具体的な行動	<input checked="" type="checkbox"/>	
ヘルパーから質問されて体を揺らしている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>レ 見えないものの理解が難しい</li> <li>ものごとの関連性がわからない</li> <li>レ 情報の多いものやその処理が苦手である</li> <li>細部に着目してしまう</li> <li>刺激に影響されやすい</li> </ul>
ヘルパーの質問にエコラリアで答えている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚に過敏がある(音・声など)</li> <li>理解するのに時間がかかる</li> <li>言葉の記憶の保持が難しい</li> <li>レ 音声言語ではうまく伝えられない</li> <li>レ 誰に伝えたらいいかわからない</li> <li>レ どうやって伝えたらいいかわからない</li> <li>やりとりをすること自体の意味がわからない</li> <li>興味関心が強くて狭い</li> <li>レ 相手の気持ちや状況の理解が難しい</li> </ul>
ヘルパーの質問にエコラリアで答えている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉を処理する速度が他者と異なる</li> <li>その他</li> </ul>
ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。 ヘルパーが懸命に話しかけてもやりとりができない。		

**3. 「支援のアイデア」をチェック✓  
します**

# 支援のアイデアを確認します

<input checked="" type="checkbox"/> 【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶／注意・集中／運動・姿勢などの特性も含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 【3】支援のアイデア
レ 見えないものの理解が難しい	生かせる強みがある(☆欄から)
ものごとの関連性がわからない	
レ 情報の多いものやその処理が苦手である	
細部に着目してしまう	レ 本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する
刺激に影響されやすい	レ 伝える量に配慮する
聴覚に過敏がある(音・声など)	伝える速さを調整する
理解するのに時間がかかる	理解できるまで待つ
言葉の記憶の保持が難しい	環境を整え、刺激を少なくする
レ 音声言語ではうまく伝えられない	レ だれに、どうやって伝えるか具体的に示す
レ 誰に伝えたらいいかわからない	忘れたときに思い出すせる工夫を用意する
レ どうやって伝えたらいいかわからない	会話も見えるツールで支援する
やりとりをすること自体の意味がわからない	本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする
興味関心が強くて狭い	会話の場の人数などにも配慮する
レ 相手の気持ちや状況の理解が難しい	その他
言葉を処理する速度が他者と異なる	
その他	

# 4. 「強み」を書き出します

特性確認シート		【1】診断の基準に關係する行動の特性		【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・知能/注意・集中/運動・姿勢などの特性も含む)		【3】支援のアイデア	
診断の基準に關係する項目		現れている行動の例	☑	具体的な行動	☑	☑	
人や集団との 關係に難しさ がある		人とのかわりが一時的である					生かせる強みがある(☆欄から)
		相手の気持ちに關係なく行動する					
状況の理解が 難しい		一人でいることを好む					
		同世代の人と上手に付き合うことができない					
理解が難しい		人が多いところが苦手である					自分と周囲との關係や感情などを見える形で伝える
		複数の人といっしょに活動することが難しい					自分の心と体を休められる場所を用意する
コミュニケーションの 特性		周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である					「いつ」「どこで」「何を」の情報を捉えてわかるように伝える
		他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい					難目すべき場所を強調する
発信が難しい		年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない					一つの場所を多目的に使わないようにする
		その場にあてふさわしい(安全・迷惑等状に配慮した)行動がとれない					「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何をする」をわかるように工夫する
やり取りが 難しい		周囲にどのように見られているかわからない					困ったときに誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える
		周囲のことに興味を示さない					環境を整え、刺激を少なくする
変化への対応 困難		活動への参加が難しい					活動の量やシグなどの工夫をする
		自分勝手な行動をしているように見える					椅子や材料などの配置を工夫する
想像力の特性		特つが苦手である					その他
		自由時間を上手に使うことができない					
感覚が敏感・ 鈍感		危険と思われる行動をしてしまう					
		言語で指示をしてもすぐに行動できない/指示されたことと違うことをする					
コミュニケーションの 特性		決まりきった場面の言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある					生かせる強みがある(☆欄から)
		相手の体の全体ニュアンスを理解することが難しい					
発信が難しい		相手の表情や視線、気持ちを捉えることが苦手である/特定の表情や音響などに過度に反応する					本人が使えないツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する
		短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある)					伝える量に配慮する
やり取りが 難しい		相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア)					伝える速さを調整する
		言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)					理解できるまで待つ
想像力の特性		抽象的で曖昧な(ちよつと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい					環境を整え、刺激を少なくする
		冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない/字義通りの理解(言外の意味を把握できない)					だれに、どうやって伝えられるか具体的に示す
コミュニケーションの 特性		行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える					忘れたときに思い出すための工夫を用意する
		コミュニケーションの場面は言葉でも伝える手段で言葉を使えない					発話も見せるツールで支援する
発信が難しい		自分にしかわからない言い方で伝えることがある(薄りたくなる「りんご」と言うなど)					本人の処理速度に合わせて発話の場の設定をする
		言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ)					発話の場の人数などにも配慮する
やり取りが 難しい		返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)					その他
		この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い					
想像力の特性		文法が使えない(単語・二語文)/使えても動詞(がの)を間違える					
		視線が合わない/アイコンタクトが取れない					
コミュニケーションの 特性		やりとりができない/かみあわない					
		やりとりが続かない					
想像力の特性		衝突に話し出す/自分が知ることは相手も知っている前提で話することができない					
		理解と発信の状態のアンバランスが大きい					
想像力の特性		自分のルールを変えられることに抵抗がある/必要があっても変更できない					生かせる強みがある(☆欄から)
		目標が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更が弱い					
想像力の特性		活動の途中で止められると対応できない					最初から正しい方法で学べる準備をする
		新規場面で(初めての)ことが苦手である					その程度判断するのが苦手である
想像力の特性		現取りを繰り返す、優先順位をつけることが苦手である					部分的な処理が強い(全体の理解が苦手である)
		漫画、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返し再生などの一部分に執着する					少しの興味で大きな不安が生じる
想像力の特性		必要があっても、自分の興味のないものに関心を示すことができない					目から入った配属に強く影響される
		細かいことが気になって引っかかる					手がかりが変わるとわからなくなる
想像力の特性		声をかけても聞かえていないようにふるまうことがある					やり方を覚えられず、自分のルールに固ってしまう
		同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある					コミュニケーションと思われる混乱がある
想像力の特性		同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す/長時間繰り返す					その他
		自分なりの手順、目標、道順などの自分ルールが多くある					
想像力の特性		聴覚/耳を塞ぐ、特定の音を遮る、怖がる、特定の音を大量にしたがるなど					感覚に過敏がある
		視覚/性しがる、目を閉じる、帽子やフードを目隠しにかぶる、キラキラに没頭するなど					感覚に鈍感がある
想像力の特性		聴覚/同じ素材の頭しか触たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、乾髪機などで激しく抵抗するなど					感覚の入出力のコントロールが難しい
		聴覚(言葉)/刺激を好む、特定の臭いを積極的に嗅ぐなど					鏡面を補うための自己制御行動がある
想像力の特性		聴覚/著しい痛さ、特定の音の強い味を好む、同じものばかり食べるなど					疲労やストレスが感覚に影響を与えている
		真臭/刺激臭を好む、特定の臭いを積極的に嗅ぐなど					その他
想像力の特性		その他/目が合わない、ロッキングが多い、寒い場所が好きなど					必要なら調整を促す
		その他/体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど					苦手な刺激を少なくするための配慮(イヤーマフ・サングラスなど)をする
想像力の特性							他刺激で代替するなど、強い危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を頼む
							避難場所の確保を行う
☆得意なこと・強み・ できること・好きなことなど							その他

# 「強み」(ストレングス)とは

支援をするときに活かせそうな、本人の能力や環境

## ※ストレングスモデル

その人が元来持っている強さに注目し、それを引き出して活用していこうとする考え方

障害特性も「リフレーミング」により強みになる場合もある。

# (参考) リフレーミング

ある枠組み（フレーム）で捉えられている物事を、枠組みをはずして違う枠組みで見ること

今までの考えとは「解釈を変える・視点を変える」

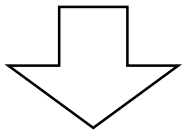
「違った角度からアプローチする」ことにより、誰もが潜在的に持っている能力を使って、意図的に自分や相手の生き方を健全なものにし、ポジティブなものにしていく。

# リフレーミングの例

「水をどのくらい飲めましたか？」

【ポジティブ】

半分も飲めている

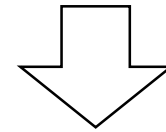


「あと少しで飲み終わりますね。」  
「頑張ってますね。」



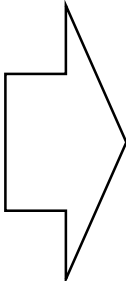
【ネガティブ】

半分しか飲めていない



「全然飲めていないですね。」  
「早く飲んでくださいよ。」

# リフレーミングの例

- 
- 動作が遅い
  - 大雑把
  - 頑固、融通がきかない
  - 気が散りやすい
  - 自己中心的
  - 心配性
  - 自分勝手
  - 作業が雑
  - 集団で行動できない
  - 飽きっぽい
  - しつこい
  - 人に流されやすい
- 一つ一つ丁寧にできる
  - 小さいことが気にならない
  - 強い意志を持っている
  - 好奇心旺盛
  - 自分のことを大切にできる
  - 先のことを予測できる
  - 主体的に行動できる
  - 大まかなことはできる
  - 1人で行動できる
  - 気持ちの切り替えが早い
  - ねばり強い
  - 状況把握ができています



# リフレーミングの考え方の大切さ

リフレーミングは、問題、課題への対応方法を考えるときに用いることが多い。

問題・課題解決において

- ① 「できない理由」ではなく「どうやったらできるか」を考えるようになる
- ② その人自身を変えようとするのではなく、環境、支援方法を変えるようになる
- ③ ピンチをチャンスに変える思考習慣が身につく

# 本人の情報の中から、 支援に活かせるような本人の「強み」をピックアップします。

## 本人の情報

A D L : 着脱はできるが、身だしなみを整えることは難しい。食べこぼしはあるが、一人で食べることができる。食べる速度は速い。排尿は自立。排便はふきとりに介助が必要

ことばの理解：普段よく使う言葉に反応することがあるが、理解した行動には至らないことが多い。

気持ちの伝え方：要求するときは、言葉ではなく、多くは相手の手を取り伝える。エコラリア（反響言語）が多く会話にはならない。

自宅での余暇活動：音楽を聴く 紙破き

※暇な時間に紙を破いて過ごすことがある。お金に関しては破かないこともあるが、お金とそれ以外の紙を区別しているかは不明。

視覚支援：これまで写真や絵カードを使って支援された経験はないが、好きな店のロゴマークを見て笑ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことはある。

その他の気になる行動：不安定になると、床や服のゴミや毛玉などが気になり、拾って見えないところに捨てる。片ひざをつく、ロッキングなどの行動が増える。

活動の予告：一日の活動の予告などはされておらず、直前に次の活動について言葉で丁寧に予告するという支援がされている。

外出の頻度：パワードームへの外出は月1回前後。その際ハンバーガーショップへ行くこともしばしばある。この活動をS・Tさんが好きかどうかはわからないが、食べる活動は嫌いではないように支援者は感じている。

活動の選択：普段の生活の場面で明らかにS・Tさんの意志で、しっかり選択したと思われるようなことはなく、支援者が推し量って選択することがほとんど。メニューも支援者が選んでいる。

外出ルート：特にこだわりのようなものは無い。支援者がルートを決めている。

※今回の外出では、行きは、普段からよく走ることが多いので車通りの少ない道を選び、帰りは、車通りは多いけれど本人が帰宅するのに最もわかりやすい道を選んでいる。

好きなもの・苦手なもの：活動として好きなことは、ブランコ、乗り物にのること、歌を聴くことなど。苦手なものは犬。

# ☆得意なこと・強み・できること・好きなことなどの欄に記載 します。

特性確認シート		[1]診断の基準に關係する行動の特性		[2]その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶/注意・集中/運動・姿勢などの特性も含む)		[3]支援のアイデア	
診断の基準に關係する項目		現れている行動の例		具体的な行動			
人や集団との 關係に難しさ がある	状況の理解 が難しい	人とのかわり方が一方的である		見えないものの理解が難しい		生かせる強みがある(☆欄から)	
		相手の気持ちに關係なく行動する		曖昧なものの理解が苦手である			
社会性の特性	状況の理解 が難しい	一人で行くことを好む		視線や雰囲気から読みとるのは苦手である			
		同世代の人と上手につき合うことができない		表情や声質など全体的な理解が苦手である		自分と周囲との關係や感情などを見える形で伝える	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	人が多いところが苦手である		文字や数等、示された情報を理解することができない		自分の心と体を休められる場所を用意する	
		複数の人といっしょに活動することが難しい		情報の多いものやその処理が苦手である		「いつ」「どこで」「何を」の情報を捉えてわかるように伝える	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	周囲の様子から察知されていることを理解することが苦手である		どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない		着目すべき場所を強調する	
		他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい		一瞬に同じものを覚えて保持し続けることが難しい/失感が少ない		一つの場所を多目的に使わないようにする	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	年齢相応の常備(社会的なルール)が身につけていない		気になるところから抜けられない		「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何をやる」をわかるように工夫する	
		その場に入らざる(安全・迷惑等状況に配慮した)行動がとれない		ものごとの関連性がわからない		困ったときに誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	周囲にどのように見られているかわからない		刺激に影響されやすい		活動の量やゾングなどの工夫をする	
		周囲のことに興味を示さない		運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない		椅子や材料などの配置を工夫する	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	活動への参加が難しい		姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える		その他	
		自分勝手な行動をしているように見える		時間の流れを頭の中で組み立てられない			
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	待つのが苦手である		終わりが理解しにくい			
		自由時間を上手に使うことができない		手順が思いつかない			
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	危険と思われる行動をしてしまう		ひとつの活動に集中しきれない			
				その他			
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	言語で指示をしてもすぐ行動できない/指示されたことと違うことをする	レ	見えないものの理解が難しい		生かせる強みがある(☆欄から)	
		決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある	レ	ほとんどの関連性がわからない			
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい	レ	情報の多いものやその処理が苦手である			
		相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である/特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する	レ	細部に着目してしまう	レ	本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある)	レ	刺激に影響されやすい	レ	伝える量に配慮する	
		相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコラリア)	レ	聴覚に過敏がある(音・声など)	レ	伝える速さを調整する	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)	レ	理解するのに時間がかかる	レ	理解できるまで待つ	
		抽象的で曖昧な(ちよっと、ゆっく、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい	レ	言葉の記憶の保持が難しい	レ	環境を整え、刺激を少なくする	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない/言葉通りの理解(言外の意味を把握できない)	レ	音声言語ではうまく伝えられない	レ	だれに、どうやって伝えるか具体的に示す	
		行動(かんしゃく、パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える	レ	誰に伝えたいかわからない	レ	忘れたいときに思い出す工夫を用意する	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	コミュニケーションの台詞は覚えても伝える手段で言葉を使えない	レ	どうやって伝えたいかわからない	レ	会話も見ええるツールで支援する	
		自分しかわからない言い方で伝えることがある(繰り返すと「りんご」と言うなど)	レ	やりとりをするとき自分の意味がわからない	レ	本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	言葉の特定の機能か使えない(要求のみ、あいさつのみ)	レ	興味関心が強く狭い	レ	会話の場の人数などにも配慮する	
		返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)	レ	相手の気持ちが状況の理解が難しい	レ	その他	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い	レ	言葉の処理する速度が他者と異なる	レ		
		文法が使えない(単語・二語文)/使えても助詞(がのにを)を間違える	レ	その他	レ		
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	視線が合わない/アイコンタクトが取れない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない、ヘルパーが怒念を話しかけてもやりとりができない。	レ		
		やりとりが難しい	レ		レ		
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	やりとりが続かない	レ		レ		
		唐突に話し出す/自分が知ることは相手も知っている前提で話をすることができない	レ		レ		
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	理解と発信の状況のアンバランスが大きい	レ		レ		
			レ		レ		
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	自分のルールを変えられることに抵抗がある/必要があっても変更できない		自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい		生かせる強みがある(☆欄から)	
		日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更が弱い		変更があることの意味が難しい			
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	活動の途中で止められると対応できない		興味関心が強く狭い		最初から正しい方法で学べる準備をする	
		新規場面(初めてのことが)が苦手である		集中しすぎると注意の移動が難しい		予告を視覚的に行い、成功につながる手がかりを提供する	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	段取りを組んだり、優先順位をつけることが苦手である		その都度判断するのが苦手である		予告でも確認できるように、手がかりが見えるようにする	
		標識、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返し再生などの一部分に執着する		部分的な処理が強く全体の理解が苦手である		言葉の提示などの活動の選択のなかを明確にする	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	物の一部に必要の強い興味		少しの進い大きな失敗が生じる		環境を整え、刺激を少なくする	
		細かいことが気になる(ひっかけ)		目に入った記憶に強く影響される		本人の興味関心に合わせて提示(ごほうびの活用)を行う	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	声をかけても聞こえていないようにふるまうことがある		手がかりが変わるとわからない		変わらないものは習慣化できるようにする	
		同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある		やり方を変えられず、自分のルールに戻ってしまう		変わったとしても確認できるように、手がかりが見えるようにする	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す/長時間続ける		フラッシュバックと思われる混乱がある		その他	
		自分なりの手順、日課、道順などの自分ルールが多くある		その他			
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	聴覚/耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがるなど		感覚に過敏がある		生かせる強みがある(☆欄から)	
		視覚/眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを深くにかぶる、キラキラに没頭するなど		感覚に鈍感がある			
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	触覚/同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、散髪などで激しく抵抗するなど		感覚の入出力のコントロールが難しい		必要な刺激は保証する	
		嗅覚(臭覚)/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど		鈍感さを補うための自己刺激行動がある		苦手な刺激を少なくするための配慮(イヤホン・サングラスなど)をする	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	味覚/着しい偏食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど		疲労やストレスが感覚に影響を与えている		刺激で代用をするなど、強く危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を講じる	
		嗅覚/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど		その他		避妊場所の確保を行う	
状況の理解 が難しい	状況の理解 が難しい	その他/目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど					
		その他/体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど					
☆得意なこと・強み・できること・好きなことなど		好きな店のロゴマークを見て笑ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。					

# 支援のアイデアに活かさせそうな内容を転記します。

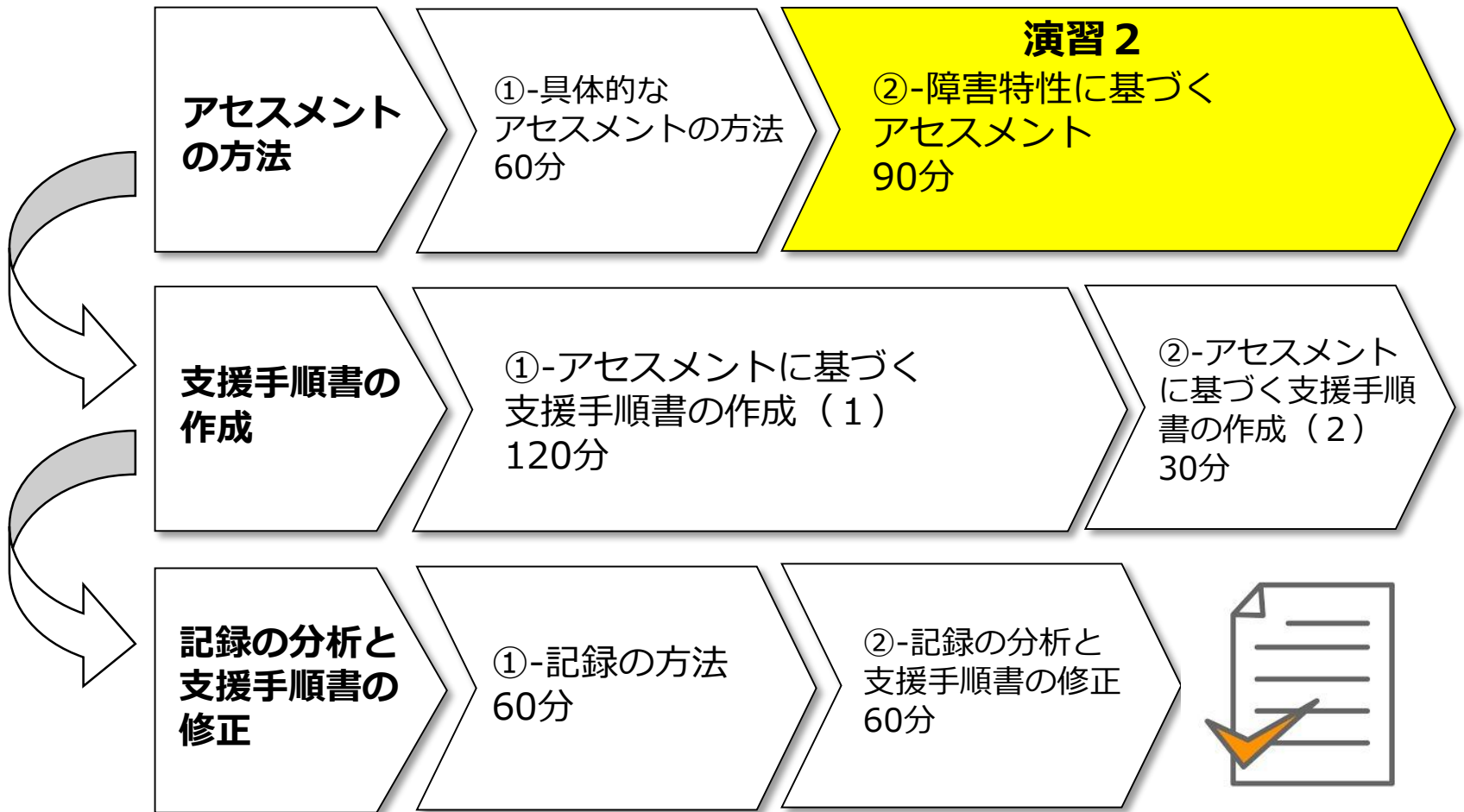
特性確認シート		【1】診断の基準に關係する行動の特性		【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・応性 / 注意・集中 / 運動・姿勢などの特性も含む)		【3】支援のアイデア		
診断の基準に關係する項目		現れている行動の例		具体的な行動		現れている行動の例		
社会性の特性	人や集団との関係に難しさがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>人とのかわわりが一方的である</li> <li>相手の気持ちに關係なく行動する</li> <li>一人でいることを好む</li> <li>同世代の人と上手に付き合うことができない</li> <li>人が多いところが苦手である</li> <li>複数の人といっしょに活動することが難しい</li> <li>周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である</li> <li>他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>		<ul style="list-style-type: none"> <li>見えなものの理解が難しい</li> <li>曖昧なものの理解が苦手である</li> <li>視線や雰囲気から読みとるのは苦手である</li> <li>表情や声質など全体的な理解が苦手である</li> <li>文字や数等、示された情報を理解することができない</li> <li>情報の多いものやその処理が苦手である</li> <li>どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない</li> <li>今あるいはさっきしていたことを忘れてしまう</li> <li>一緒に同じものを見て気持ちを変えることが難しい / 共感が少ない</li> <li>気にならなから抜けられない</li> <li>ものごとの関連性がわからない</li> <li>刺激に影響されやすい</li> <li>運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない</li> <li>姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える</li> <li>時間の流れを頭の中で組み立てられない</li> <li>終わりが理解しにくい</li> <li>手順が思いつかない</li> <li>ひとつの活動に集中しきれない</li> <li>その他</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生かせる強みがある(★欄から)</li> <li>自分と周囲との関係や感情などを見える形で伝える</li> <li>自分の心と体を休められる場所を用意する</li> <li>「いつ」「どこで」「何を」の情報を覚えるように伝える</li> <li>着目すべき場所を強調する</li> <li>一つの場所を多目的に使わないようにする</li> <li>「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何をやる」をわかるように工夫する</li> <li>困ったときに誰にどう伝えたらいいかを具体的に伝える</li> <li>環境を整え、刺激を少なくする</li> <li>活動の量やジグなどの工夫をする</li> <li>椅子や材料などの配置を工夫する</li> <li>その他</li> </ul>	
	状況の理解が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢相応の常識(社会的ルール)が身につけていない</li> <li>その場にならぬ(安全・迷惑等)に配慮した行動がとれない</li> <li>周囲にどのように見られているかわからない</li> <li>周囲のことに興味を示さない</li> <li>活動への参加が難しい</li> <li>自分勝手な行動をしているように見える</li> <li>待つのが苦手である</li> <li>自由時間を上手に使うことができない</li> <li>危険と思われる行動をしてみよう</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>		<ul style="list-style-type: none"> <li>見えなものの理解が難しい</li> <li>ものごとの関連性がわからない</li> <li>情報の多いものやその処理が苦手である</li> <li>細部に着目してしまう</li> <li>刺激に影響されやすい</li> <li>刺激に過敏がある(音・声など)</li> <li>理解するのに時間がかかる</li> <li>言葉の記憶の保持が難しい</li> <li>音声言語ではうまく伝えられない</li> <li>誰に伝えたらいいかわからない</li> <li>どうやって伝えたらいいかわからない</li> <li>やりとりをすること自体の意味がわからない</li> <li>興味関心が強く狭い</li> <li>相手の気持ちや状況の理解が難しい</li> <li>言葉を処理する速度が他者と異なる</li> <li>その他</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生かせる強みがある(★欄から)</li> <li>好きな店のロゴマークを見て戻ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。</li> <li>伝える量に配慮する</li> <li>伝えるべきを調整する</li> <li>理解できるまで待つ</li> <li>環境を整え、刺激を少なくする</li> <li>だれに、どうやって伝えるか具体的に示す</li> <li>忘れたいときに思い出す工夫を用意する</li> <li>会話を見えるツールで支援する</li> <li>本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする</li> <li>会話の場の人数などにも配慮する</li> <li>その他</li> </ul>	
コミュニケーションの特性	理解が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語で指示をしてもすぐ行動できない / 指示されたことと違うことをする</li> <li>決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある</li> <li>相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい</li> <li>相手の表情や視線、気持ちを汲むことが苦手である / 特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する</li> <li>短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある)</li> <li>相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア)</li> <li>言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)</li> <li>抽象的で曖昧な(ちよっと、ゆっく、なんとな、だいたいなど)表現の理解が難しい</li> <li>冗談や駄洒落、慣用語などが理解できない / 言葉通りの理解(言外の意味を把握できない)</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	ヘルパーから質問されて体を揺らしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見えなものの理解が難しい</li> <li>ものごとの関連性がわからない</li> <li>情報の多いものやその処理が苦手である</li> <li>細部に着目してしまう</li> <li>刺激に影響されやすい</li> <li>刺激に過敏がある(音・声など)</li> <li>理解するのに時間がかかる</li> <li>言葉の記憶の保持が難しい</li> <li>音声言語ではうまく伝えられない</li> <li>誰に伝えたらいいかわからない</li> <li>どうやって伝えたらいいかわからない</li> <li>やりとりをすること自体の意味がわからない</li> <li>興味関心が強く狭い</li> <li>相手の気持ちや状況の理解が難しい</li> <li>言葉を処理する速度が他者と異なる</li> <li>その他</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生かせる強みがある(★欄から)</li> <li>好きな店のロゴマークを見て戻ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。</li> <li>伝える量に配慮する</li> <li>伝えるべきを調整する</li> <li>理解できるまで待つ</li> <li>環境を整え、刺激を少なくする</li> <li>だれに、どうやって伝えるか具体的に示す</li> <li>忘れたいときに思い出す工夫を用意する</li> <li>会話を見えるツールで支援する</li> <li>本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする</li> <li>会話の場の人数などにも配慮する</li> <li>その他</li> </ul>
	発信が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える</li> <li>コマメーションやエコーの台詞は言っても伝わらない / 言葉を使えない</li> <li>自分にしからず言い方で伝えることがある(偉りたくなると「んご」と言うなど)</li> <li>言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ)</li> <li>返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)</li> <li>この場ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い</li> <li>文法が使えない(単語・二語文) / 使っても助詞(がのにを)を間違える</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	ヘルパーの質問にエコーリアで答えている。	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見えなものの理解が難しい</li> <li>ものごとの関連性がわからない</li> <li>情報の多いものやその処理が苦手である</li> <li>細部に着目してしまう</li> <li>刺激に影響されやすい</li> <li>刺激に過敏がある(音・声など)</li> <li>理解するのに時間がかかる</li> <li>言葉の記憶の保持が難しい</li> <li>音声言語ではうまく伝えられない</li> <li>誰に伝えたらいいかわからない</li> <li>どうやって伝えたらいいかわからない</li> <li>やりとりをすること自体の意味がわからない</li> <li>興味関心が強く狭い</li> <li>相手の気持ちや状況の理解が難しい</li> <li>言葉を処理する速度が他者と異なる</li> <li>その他</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生かせる強みがある(★欄から)</li> <li>好きな店のロゴマークを見て戻ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。</li> <li>伝える量に配慮する</li> <li>伝えるべきを調整する</li> <li>理解できるまで待つ</li> <li>環境を整え、刺激を少なくする</li> <li>だれに、どうやって伝えるか具体的に示す</li> <li>忘れたいときに思い出す工夫を用意する</li> <li>会話を見えるツールで支援する</li> <li>本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする</li> <li>会話の場の人数などにも配慮する</li> <li>その他</li> </ul>
	やり取りが難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>視線が合わない / アイコンタクトが取れない</li> <li>やりとりができない / 噛みあわない</li> <li>やりとりが続かない</li> <li>唐突に話し出す / 自分が知っている相手も知らない前提で話をする事ができない</li> <li>理解と発信の状況のアンバランスさが大きい</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。ヘルパーが懸命に話しかけてもやりとりができない。	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見えなものの理解が難しい</li> <li>ものごとの関連性がわからない</li> <li>情報の多いものやその処理が苦手である</li> <li>細部に着目してしまう</li> <li>刺激に影響されやすい</li> <li>刺激に過敏がある(音・声など)</li> <li>理解するのに時間がかかる</li> <li>言葉の記憶の保持が難しい</li> <li>音声言語ではうまく伝えられない</li> <li>誰に伝えたらいいかわからない</li> <li>どうやって伝えたらいいかわからない</li> <li>やりとりをすること自体の意味がわからない</li> <li>興味関心が強く狭い</li> <li>相手の気持ちや状況の理解が難しい</li> <li>言葉を処理する速度が他者と異なる</li> <li>その他</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生かせる強みがある(★欄から)</li> <li>好きな店のロゴマークを見て戻ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。</li> <li>伝える量に配慮する</li> <li>伝えるべきを調整する</li> <li>理解できるまで待つ</li> <li>環境を整え、刺激を少なくする</li> <li>だれに、どうやって伝えるか具体的に示す</li> <li>忘れたいときに思い出す工夫を用意する</li> <li>会話を見えるツールで支援する</li> <li>本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする</li> <li>会話の場の人数などにも配慮する</li> <li>その他</li> </ul>
	想像力の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のルールを要えられることに抵抗がある / 必要があっても変更できない</li> <li>日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更に対応できない</li> <li>活動の途中で止められると対応できない</li> <li>新規場面(初めてのことが)が苦手である</li> <li>役割を繰り返したり、優先順位をつけることが苦手である</li> <li>録音、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返しの再生などの一部に執着する</li> <li>必要があっても、自分の興味のないものに關心を示すことができない</li> <li>細かいことが気になってひっかかる</li> <li>声をかけても聞かえていない / ようにふるまうことがある</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい</li> <li>変更があることへの理解が難しい</li> <li>興味関心が強く狭い</li> <li>気づきずると注意の移動が難しい</li> <li>その都度判断するのが苦手である</li> <li>部分的な処理が強く全体の理解が苦手である</li> <li>少しの違いで大きな不安が生じる</li> <li>目から入った情報に強く影響される</li> <li>手がかりが変わるとわからなくなる</li> <li>やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう</li> <li>フラッシュバックと思われる混乱がある</li> <li>その他</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生かせる強みがある(★欄から)</li> <li>最初から正しい方法で覚える準備をする</li> <li>予告を視覚的に示し、成功につながる手がかりを提供する</li> <li>忘れも確認できるように、手がかりが見えるようにする</li> <li>変更の伝え方を統一する</li> <li>順番の提示なのか活動の選択なのかを明確にする</li> <li>環境を整え、刺激を少なくする</li> <li>本人の興味関心に合わせて提示(ごほうびの活用)を行う</li> <li>フラッシュバック等を利用して活動に興味をもたせる</li> <li>覚えられないものは習慣化できるようにする</li> <li>忘れも確認できるように、手がかりが見えるようにする</li> <li>その他</li> </ul>
感覚の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚 / 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがするなど</li> <li>視覚 / 眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを自覚にかぶる、キラキラに没頭するなど</li> <li>触覚 / 同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、散髪などで強く抵抗するなど</li> <li>嗅覚(臭覚) / 刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど</li> <li>味覚 / 着しい偏食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど</li> <li>臭覚 / 刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど</li> <li>その他 / 目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど</li> <li>その他 / 体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚に過敏がある</li> <li>感覚に鈍麻がある</li> <li>感覚の入出力のコントロールが難しい</li> <li>鈍麻を補うための自己刺激行動がある</li> <li>疲労やストレスが感覚に影響を与えている</li> <li>その他</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生かせる強みがある(★欄から)</li> <li>必要な刺激は保証する</li> <li>苦手な刺激を少なくするための配慮(イヤマフ・サングラスなど)をする</li> <li>他刺激で代用をするなど、強く危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を講じる</li> <li>避難場所の確保を行う</li> <li>その他</li> </ul>	
★得意なこと・強み・できること・好きなことなど		好きな店のロゴマークを見て戻ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。						

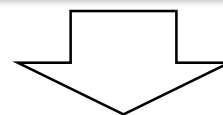
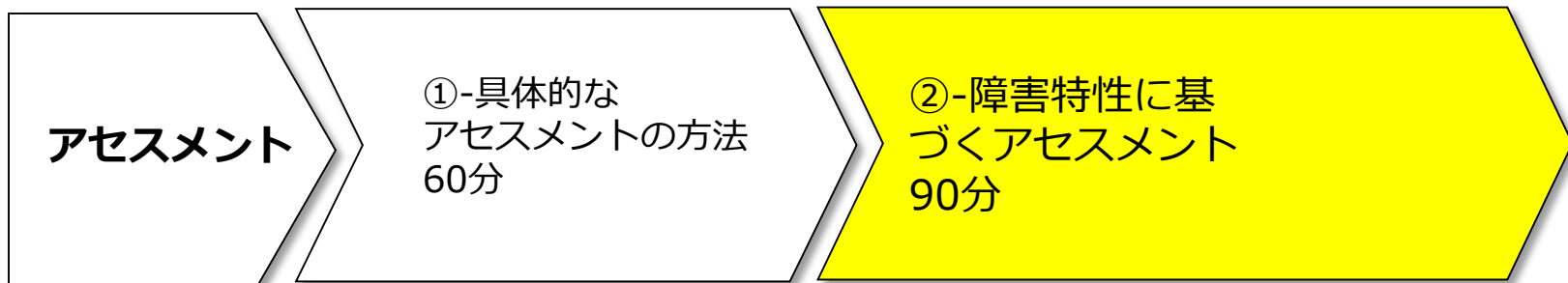
<p>レ ▼ えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない</p>	<p>生かせる強みがある(☆欄から) 好きな店のロゴマークを見て笑ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。</p>
<p>レ 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう</p>	<p>レ 本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する</p>
<p>刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など)</p>	<p>レ 伝える量に配慮する 伝える速さを調整する</p>
<p>理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい</p>	<p>理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする</p>
<p>レ 音声言語ではうまく伝えられない レ 誰に伝えたらいいかわからない</p>	<p>レ だれに、どうやって伝えるか具体的に示す 忘れたときに思い出すせる工夫を用意する</p>
<p>レ どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない</p>	<p>会話も見えるツールで支援する 本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする</p>
<p>興味関心が強くて狭い レ 相手の気持ちや状況の理解が難しい</p>	<p>会話の場の人数などにも配慮する その他</p>
<p>言葉を処理する速度が他者と異なる その他</p>	

## **演習 2 アセスメントの方法**

### **②-障害特性に基づくアセスメント**

# 演習の流れ





i) インフォーマルアセスメント

- 「特性確認シート」の作成

ii) 特性確認シートを支援手順書につなげる

- 「冰山モデル」について
- 「冰山モデル」の作成



**i) インフォーマルアセスメント**

# 「特性確認シート」の作成



今回は、個人で作成します

使用シート「個人ワーク用特性確認シート」A3

参考シート「STさん基本情報シート」A4

STさんの外出場面③「購入する」、④「食べる」を使って、「コミュニケーションの特性」をアセスメントします。

※個人で作成するのは、③か④の場面の**いずれかひとつ**です。

1. 「購入する」、「食べる」場面の動画を視聴した後、「コミュニケーションの特性」部分の「現れている行動の例」をチェック☑し、「具体的な行動」を記入する。
2. 「その行動の背景にある要因として考えられること」をチェックする。
3. 有効だと考えられる「支援のアイデア」をチェックする。
4. 支援に活用できそうな本人の「強み」をピックアップする。



- ③「購入する」の「特性確認シート」を作成する人、  
④「食べる」の「特性確認シート」を作成する人を、  
所属グループごとに分けます。

③「購入する」

A ・ C ・ E ・ G ・ I ・ K ・ M ・ O  
Q ・ S ・ U ・ W

④「食べる」

B ・ D ・ F ・ H ・ J ・ L ・ N ・ P  
R ・ T ・ V

# 動画の視聴

# 1. 「コミュニケーションの特性」部分の「現れている行動の例」をチェック☑し、「具体的な行動」を記入します。

21	[1] 相手の言葉・態度に対する行動の特性	22	具体的な行動	23	[2] 相手の言葉・態度に対する行動の特性	24	具体的な行動	25	[3] 相手のリアリィ
人々の個性の 違い・相違 が大きい	人々の個性が一方だけではない				意見の相違が大きい				互いが認め合える(本音)
	相手の個性に敏感に行動する				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	一人一人の個性が異なる				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
社会的個性 の違い	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
コミュニケーション の特性	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
理解が難しい	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
発信が難しい	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
やり取りが難しい	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい
	相手の個性が自分と異なることがない				相手の個性が大きい				相手の個性が大きい

理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動できない／指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある) 相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的で曖昧な(ちよっと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)
コミュニケーションの特性	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える コマニッシュやアニメの台詞は言えても伝える手段で言葉を使えない 自分にはわからない言い方で伝えることがある(掃りたくなると「りんご」と言うなど) 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)
発信が難しい	この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文)／使えても助詞(のにを)を間違える
やり取りが難しい	視線が合わない／アイコンタクトが取れない やりとりができない／かみあわない やりとりが続かない 唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話することができない 理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい

# ③ 「購入する」

次のような行動に注目してみましょう。

コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動できない／指示されたことと違うことをする	「チキンとハンバーガーどっちがいいですか？」というヘルパーの問いかけに対して
		決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある	→
		相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい	
		相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する	「コーラでいいですか？」というヘルパーの問いかけに対して
		短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある)	→
		相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア)	
		言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)	
		抽象的で曖昧な(ちょっと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい	カメラを気にしている本人をヘルパーが腕をもって引き寄せると
		冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)	→
コミュニケーションの特性	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える	声をかけながらヘルパーがお金を渡そうとすると
		コマーシャルやアニメの台詞は言えても伝える手段で言葉を使えない	→
		自分にしかわからない言い方で伝えることがある(帰りたくなると「りんご」と言うなど)	
		言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ)	
		返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)	
コミュニケーションの特性	やり取りが難しい	この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い	
		文法が使えない(単語・二語文)／使えても助詞(ののにを)を間違える	ヘルパーが話しかけたり、はたらきかけても
		視線が合わない／アイコンタクトが取れない	→
		やりとりができない／かみあわない	
コミュニケーションの特性	やり取りが難しい	やりとりが続かない	
		唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をするができない	
		理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい	

# ④ 「食べる」

次のような行動に注目してみましょう。

コミュニケーションの特性	理解が難しい	<p>言語で指示をしてもすぐに行動できない／指示されたことと違うことをする</p> <p>決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある</p> <p>相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい</p> <p>相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する</p> <p>短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある)</p> <p>相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコラリア)</p> <p>言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)</p> <p>抽象的で曖昧な(ちょっと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい</p> <p>冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)</p>	「ハンバーガーを食べる前に手を洗ってきましょう。」というヘルパーに言われて →
	発信が難しい	<p>行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える</p> <p>コマーシャルやアニメの台詞は言えても伝える手段で言葉を使えない</p> <p>自分にしかわからない言い方で伝えることがある(帰りたくなると「りんご」と言うなど)</p> <p>言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ)</p> <p>返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語)</p> <p>この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い</p> <p>文法が使えない(単語・二語文)／使えても助詞(がのにを)を間違える</p>	「拭いてくださいね。」とヘルパー声をかけると →
	やり取りが難しい	<p>視線が合わない／アイコンタクトが取れない</p> <p>やりとりができない／かみあわない</p> <p>やりとりが続かない</p> <p>唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をするができない</p> <p>理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい</p>	ヘルパーが話しかけたり、はたらきかけても →

### ③ 「購入する」

「[2] その行動の背景にある要因として考えられること」をチェックします。

「チキンとハンバーガーどっちがいいですか？」というヘルパーの問いかけに対して → 「コーラでいいですか？」というヘルパーの問いかけに対して → カメラを気にしている本人をヘルパーが腕をもって引き寄せると → 声をかけながらヘルパーがお金を渡そうとすると → ヘルパーが話しかけたり、はたらきかけても →	見えないものの理解が難しい
	ものごとの関連性がわからない
	情報の多いものやその処理が苦手である
	細部に着目してしまう
	刺激に影響されやすい
	聴覚に過敏がある(音・声など)
	理解するのに時間がかかる
	言葉の記憶の保持が難しい
	音声言語ではうまく伝えられない
	誰に伝えたらいいかわからない
	どうやって伝えたらいいかわからない
	やりとりをすること自体の意味がわからない
	興味関心が強くて狭い



# ④ 「食べる」

「[2] その行動の背景にある要因として考えられること」をチェックします。

<p>「ハンバーガーを食べる前に手を洗ってきましょう。」というヘルパーに言われて →</p>	見えないものの理解が難しい
	ものごとの関連性がわからない
	情報の多いものやその処理が苦手である
	細部に着目してしまう
	刺激に影響されやすい
	聴覚に過敏がある(音・声など)
	理解するのに時間がかかる
	言葉の記憶の保持が難しい
	音声言語ではうまく伝えられない
<p>「拭いてくださいね。」とヘルパー声をかけると →</p>	誰に伝えたらいいかわからない
	どうやって伝えたらいいかわからない
	やりとりをすること自体の意味がわからない
	興味関心が強くて狭い
	相手の気持ちや状況の理解が難しい
	言葉を処理する速度が他者と異なる
	その他
<p>ヘルパーが話しかけたり、はたらきかけても →</p>	

# 有効だと考えられる「支援のアイデア」を チェックします。

見えないものの理解が難しい	生かせる強みがある(☆欄から)
ものごとの関連性がわからない	
情報の多いものやその処理が苦手である	
細部に着目してしまう	本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する
刺激に影響されやすい	伝える量に配慮する
聴覚に過敏がある(音・声など)	伝える速さを調整する
理解するのに時間がかかる	理解できるまで待つ
言葉の記憶の保持が難しい	環境を整え、刺激を少なくする
音声言語ではうまく伝えられない	だれに、どうやって伝えるか具体的に示す
誰に伝えたらいいかわからない	忘れたときに思い出させる工夫を用意する
どうやって伝えたらいいかわからない	会話も見えるツールで支援する
やりとりをすること自体の意味がわからない	本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする
興味関心が強くて狭い	会話の場の人数などにも配慮する
相手の気持ちや状況の理解が難しい	その他
言葉を処理する速度が他者と異なる	
その他	

# 「強み」を記入します。

特性確認シート		【1】診断の基準に關係する行動の特性		【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶/注意・集中/運動・姿勢などの特性も含む)		【3】支援のアイデア	
診断の基準に關係する項目		現れている行動の例	✓	具体的な行動	✓		
社会性の特性	人や集団との関係に難しさがある	人とかかわりが一方的である 相手の気持ちに關係なく行動する 一人で行くことを好む 同世代の人と上手に付き合うことができない 人が多いところが苦手である 嫌悪の人といっしょに活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分で求められていることとの区別が難しい					生かせる強みがある(☆欄から)
	状況の理解が難しい	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等状に配慮した)行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしよう					
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐ行動できない/指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体トーンを理解することが難しい 短い言葉や視線、気持ちを汲むことが苦手である/特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でいいかわからない(短い言葉ならわかることもある)	レ	ヘルパーから質問されて体を揺らしている。	レ	見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい	生かせる強みがある(☆欄から) 好きな店のロゴマークを見て笑ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。 本人が得意なイラスト(文字・線画・絵・写真・絵画、動物・植物・人物・風景)
	発信が難しい	相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的で曖昧な(ちよっと、ゆっく、なんとなく、たいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用語などが理解できない/字義通りの理解(言外の意味を把握できない)	レ	ヘルパーの質問にエコーリアで答えている。	レ	感覚に過敏がある(音・声など) 理解するの時に時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 言葉で指示がうまく伝えられない 誰に伝えたいかわからない どうやって伝えたいかわからない やりとりするときに自分の意味がわからない 興味関心が強くて狭い	伝える量に配慮する 伝えるべきを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする だれに、どうやって伝えるか具体的に示す 忘れるときに思い出させる工夫を用意する 笑話も見せるツールで支援する 本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする 会話の場の人数などに配慮する その他
変化への対応困難	やり取りが難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える コーンウォールやアノミ、奇習は言っても伝える手段で言葉を使えない 自分しかわからない言い回しや伝えている(確りかなくなる)り(んご)と(う)言う(な)ど 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語) この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文/使っても助詞(が)の(に)を)間違える	レ	ヘルパーの質問にエコーリアで答えている。	レ	自分の(ひ)つ)の)やり)方)から)抜)け)出す)ことが)難)しい 変更があることの理解が難しい 興味関心が強くて狭い 気がしすぎる(注意)と注意の移動が難しい その都度判断するのが苦手である 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である 少しの違いで大きな不安が生じる 目が入った記憶に強く影響される 手がかりが変わるとわからなくなる やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう フラッシュバックと思われる混乱がある その他	生かせる強みがある(☆欄から)
	想像力の特性	視線が合わない/アイコンタクトが取れない やりとりができない/かみあわない 唐突に話し出す/自分が知っている前提で話をする事ができない 理解と発信の状態像のアンバランスが大きい	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。 ヘルパーが懸命に話しかけてもやりとりが難しい。			
感覚の特性	物の一部に対する強い興味	自分のルールを変えられることに抵抗がある/必要があっても変更できない 日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更に対応 活動の途中で止められると対応できない 新規場面(初めてのことが)が苦手である 段取りを粗んだり、優先順位をつけることが苦手である					生かせる強みがある(☆欄から)
	感覚が敏感・鈍感	聴覚、ロゴ、数字、テレビCM、音楽、DVDの繰り返し再生などの一部分に執着する 必要があっても、自分の興味のないものに聞くことができない 細かいことが気になる/ひっかかる 声をかけても聞かされていないようにふるまうことがある 同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある 同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す/長時間続ける 自分なりの手順、日課、連順などの自分ルールが多くある					必要なら適切な方法で学べる準備をする 予告を視覚的に、成功につながる手がかりを提供する 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする 変更の伝え方を統一する 順番の提示示のなかで活動の選択のなかを明確にする 環境を整え、刺激を少なくする 本人の興味関心に合わせて提示(ごほうびの活用)を行う ごほうび等を活用して活動に興味をもたせる 変わらないものは習慣化できるようにする 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする その他
★得意なこと・強み・できること・好きなことなど		好きな店のロゴマークを見て笑ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。					

# 「特性確認シート」の作成



今回は、グループで作成します

使用シート「グループワーク用特性確認シート」A3

③「購入する」、④「食べる」場面を使ってグループでアセスメントをします。

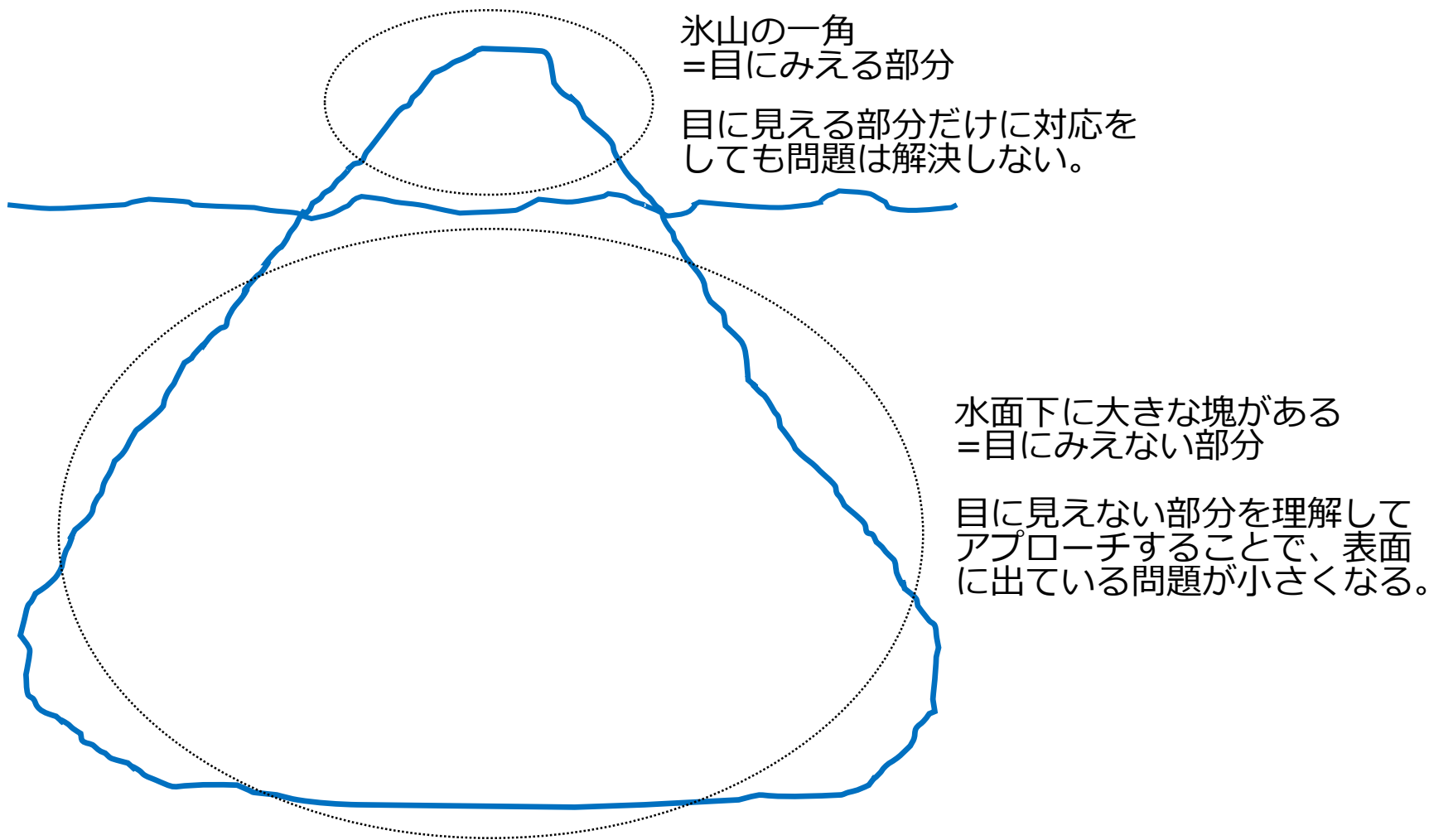
1. グループで自己紹介
2. 役割分担（司会・記録・発表）
3. 個人ワークの共有
4. グループでまとめる

**ii ) 特性確認シートを支援手順書  
につなげる**

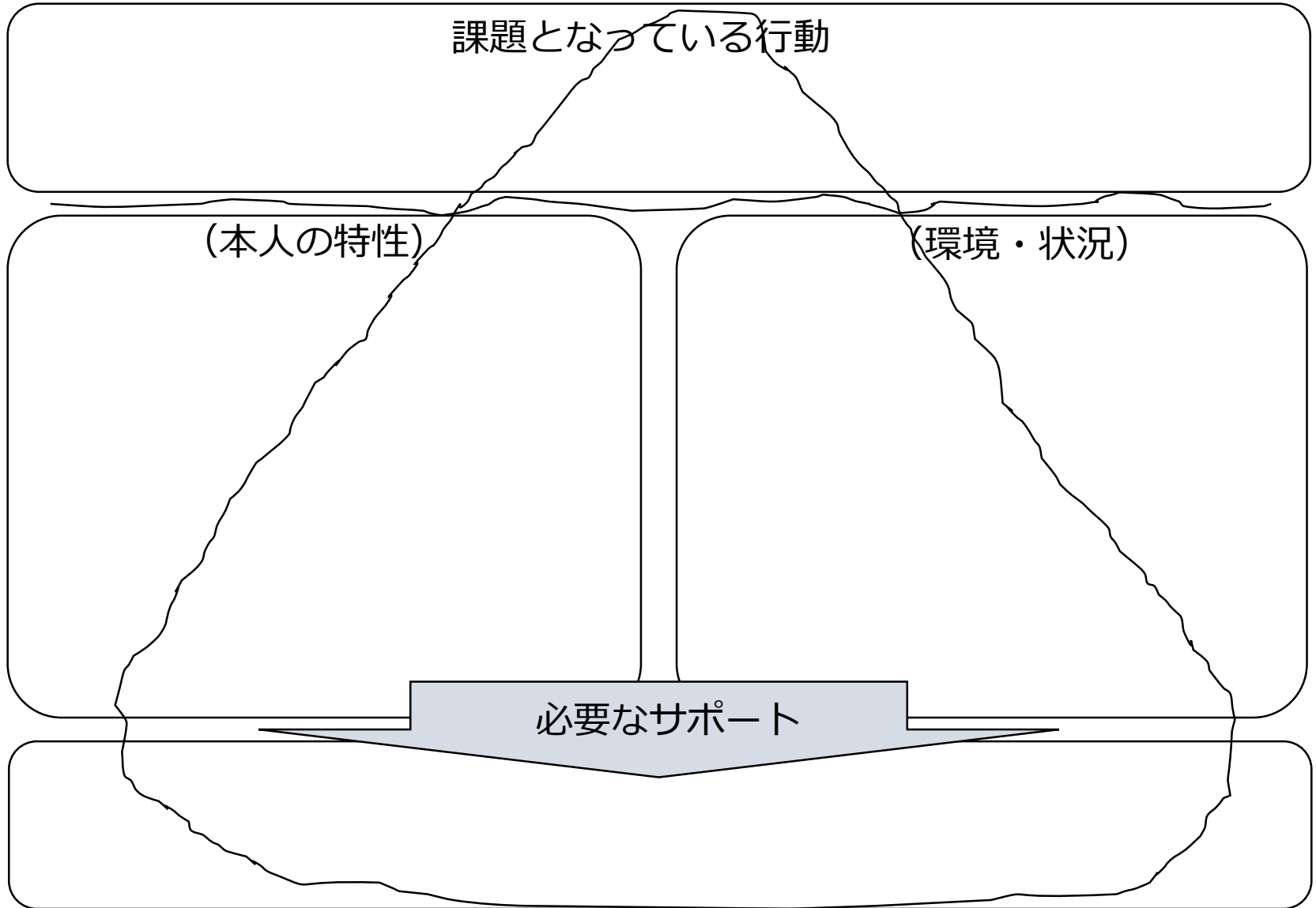
# 冰山モデルについて

参考シート「STさん特性確認シート」A3  
「見本用冰山モデルシート」A4

# 行動の背景を知るための「冰山モデル」



# 冰山モデルシート





# 冰山モデルシート

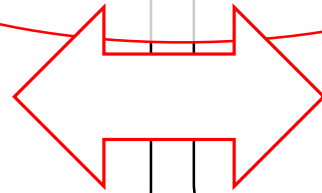
課題となっている行動

強度行動障害

(本人の特性)

(環境・状況)

強度行動障害は特性  
と環境のミスマッチ  
から生じる



必要なサポート

本人の障害特性に  
合わせたサポート  
を考える

# 冰山モデルシート

課題となっている行動

強度行動障害

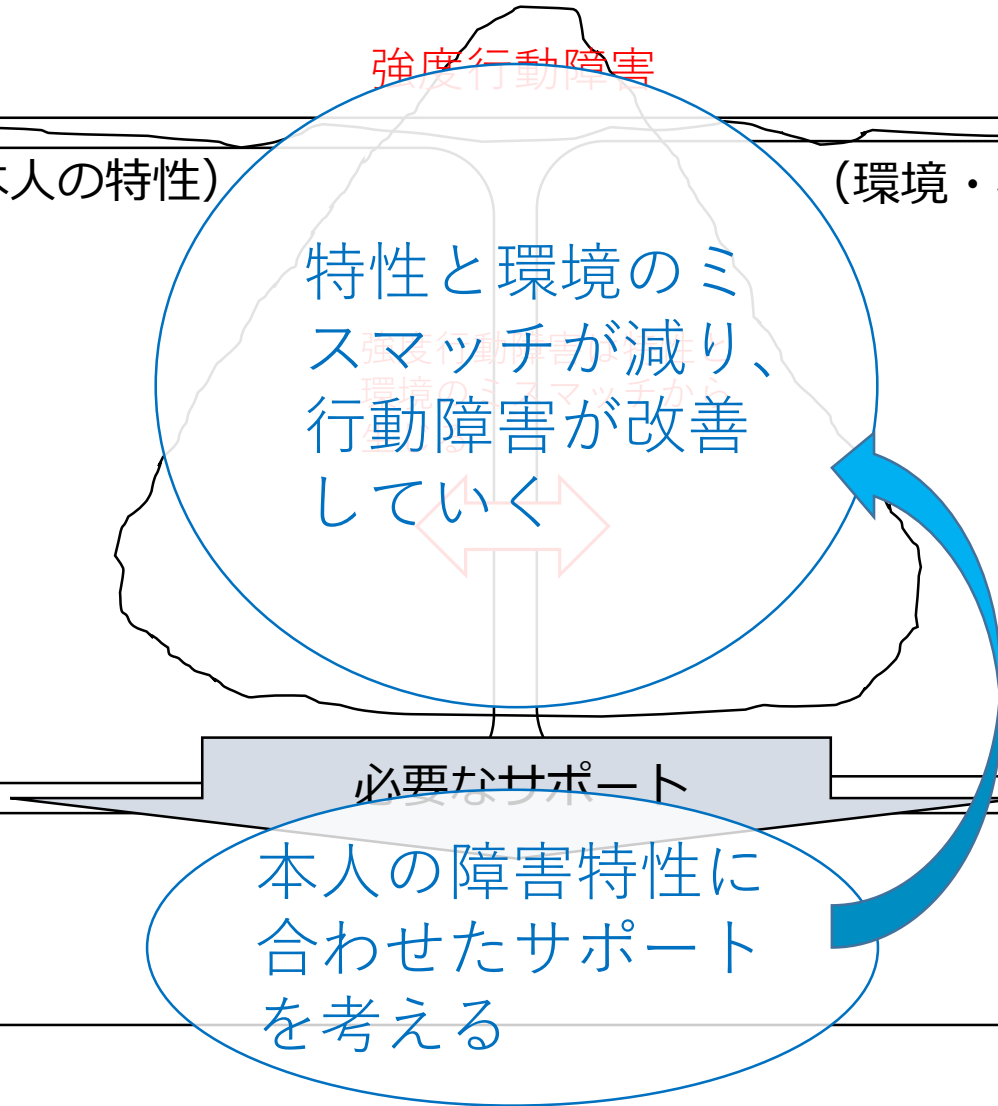
(本人の特性)

(環境・状況)

特性と環境のミスマッチが減り、  
行動障害が改善していく

必要なサポート

本人の障害特性に  
合わせたサポート  
を考える



# 課題となっている行動を記入します

課題となっている行動

課題となる行動を記入する

(本人の特性)

(環境・状況)

必要なサポート

# 本人の特性を記入します

課題となっている行動

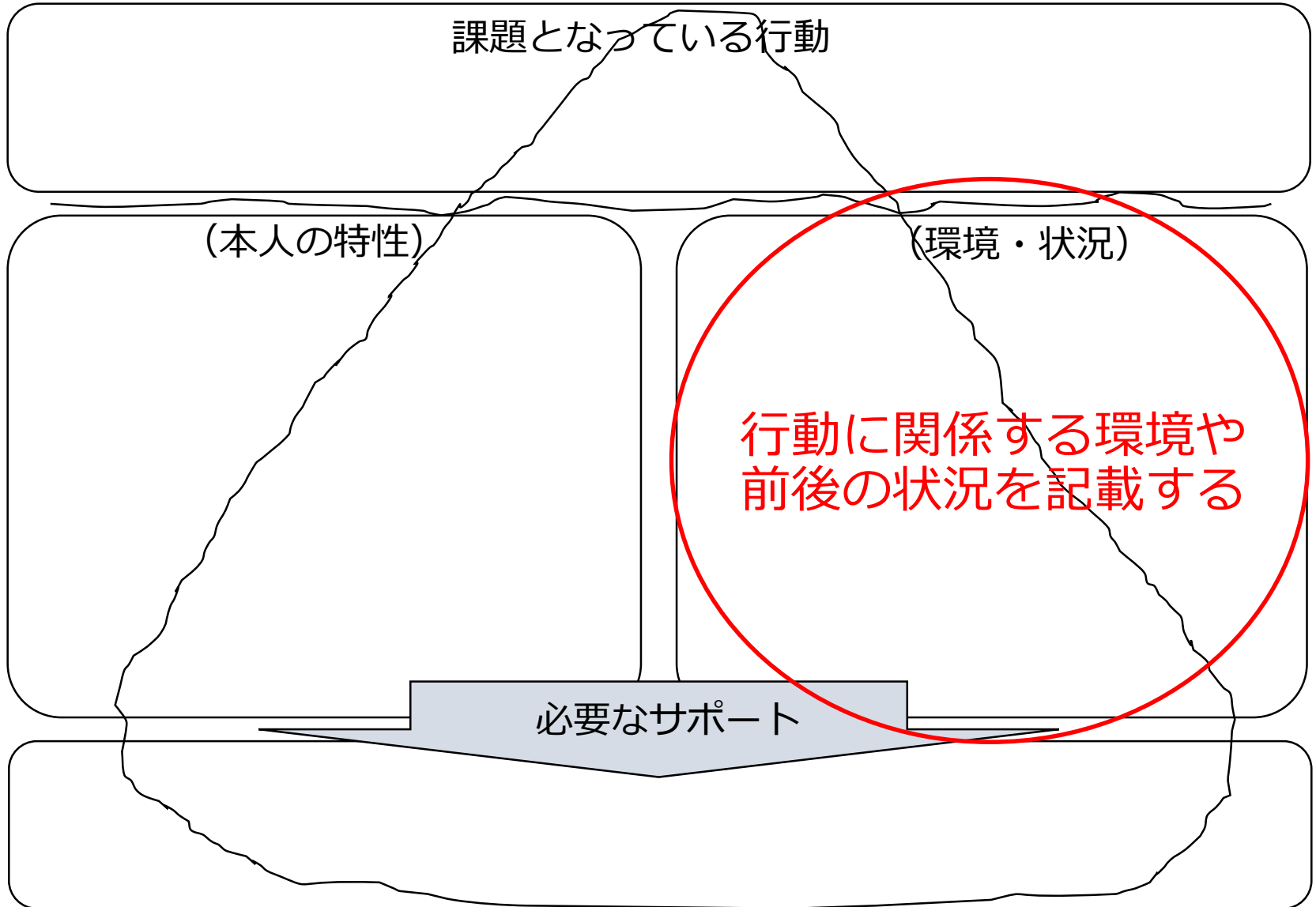
(本人の特性)

(環境・状況)

特性確認シートより  
【2】行動に関連する  
障害特性(その人の  
要因)を記載する

必要なサポート

# 環境・状況を記入します



# 必要なサポートを記入します

課題となっている行動

(本人の特性)

(環境・状況)

必要なサポート

特性確認シートの【3】「支援のアイデア」より支援に有効な方法を記載する

# 「冰山モデルシート」の作成



まずは講師がやってみます

①「予定を確認する」を使って冰山モデルを作成します。

1. 課題となる行動を設定して記入する。
2. 特性確認シートより行動の背景にある要因として考えられる本人の特性を記入する。
3. 動画より関連する環境や状況を記入する。

# 1. 課題となっている行動を記入します

課題となっている行動

①場面「落ち着いて予定を確認できない。」

(本人の特性)

(環境・状況)

必要なサポート



**2. 特性確認シート【2】より行動の  
背景にある要因として考えられる  
ことを記入します。**

# STさん特性確認シート

特性確認シート		【1】診断の基準に關係する行動の特性		【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・感情・注意・集中・運動・姿勢などの特性も含む)		【3】支援のアイデア		
診断の基準に關係する項目		現れている行動の例		具体的な行動				
人や集団との 關係に難しさが ある	レ	人とのかわりが一時的である	レ	ヘルパーから質問されて体を動かしている。	レ	見えないものの理解が難しい	レ	生かせる強みがある(☆欄から)
		相手の気持ちに關係なく行動する 一人であることを好む	レ	ヘルパーから質問されて体を動かしている。	レ	嗅味なものの理解が苦手である	レ	自分と周囲との關係や感情などを見える形で伝える
社会性の特性	レ	同世代の人と上手に付き合うことができない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	視線や雰囲気から読みとるのは苦手である	レ	自分の心と体を休められる場所を用意する
		人が多いところが苦手である	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	表情や声質など全体的な理解が苦手である	レ	「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える
状況の理解 が難しい	レ	複数の人といっしょに活動することが難しい	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	文字や数等、示された情報を理解することができない	レ	注目すべき場所を強調する
		周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	情報をの多いものやその処理が苦手である	レ	一つの場所を多目的に使わないようにする
理解が難しい	レ	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	どこを見たいか、どこで活動したいかわからない	レ	「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何をする」をわかるように工夫する
		その場にふさわしい(安全・迷惑等)に配慮した行動がとれない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	今あるいはさき進んでいたことを忘れてしまう	レ	環境を整え、刺激を少なくする
コミュニケーションの特性	レ	周囲にどのように見られているかわからない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	一緒に同じものを見て気持ちを合わせることが難しい(共感が少ない)	レ	活動の量やジグなどの工夫をする
		周囲のことに興味を示さない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	ものごとの関連性がわからない	レ	椅子や材料などの配置を工夫する
発信が難しい	レ	活動への参加が難しい	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	刺激に影響されやすい	レ	姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える
		自分勝手な行動をしているように見える	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない	レ	時間の流れを頭の中で組み立てられない
やり取りが難しい	レ	待つのが苦手である	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	終わりが理解しにくい	レ	手順が思いつかない
		自由時間を上手に使うことができない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	ひとつの活動に集中しきれない	レ	その他
想像力	レ	危険と思われる行動をしてしまう	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	その他	レ	生かせる強みがある(☆欄から)
		言語で指示をしてもすぐに行動できない/指示されたことと違うことをする	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	見えないものの理解が難しい	レ	好きな店のロゴマークを見て笑ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。
想像力	レ	決まりきった場面で言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	ものごとの関連性がわからない	レ	本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する
		相手の話を全体ニュアンスを理解することが難しい	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	情報の多いものやその処理が苦手である	レ	伝える量に配慮する
想像力	レ	相手の表情や視線、気持ちを察することが苦手である/特定の表情や雰囲気だけ過剰に反応する	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	細部に注目してしまう	レ	伝える速さを調整する
		短い言葉でないとわからない/短い言葉ならわかることもある	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	刺激に影響されやすい	レ	理解できるまで待つ
想像力	レ	相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語:エコーリア)	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	聴覚に過敏がある(音・声など)	レ	環境を整え、刺激を少なくする
		言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意)	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	理解するのに時間がかかる	レ	だれに、どうやって伝えたいかを具体的に示す
想像力	レ	抽象的で曖昧な(ちょっと、ゆっぴり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	言葉の記憶の保持が難しい	レ	忘れたときに思い出せる工夫を用意する
		冗談や駄洒落、慣用語などが理解できない/字義通りの理解(言外の意味を把握できない)	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	音声言語ではうまく伝えられない	レ	余語も見えるツールで支援する
想像力	レ	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	誰に伝えたいかわからない	レ	本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする
		コマースやアニメの台詞は覚えても伝える手段で言葉を使えない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	どうやって伝えたいかわからない	レ	会話の場の人数などにも配慮する
想像力	レ	自分にかかわらない言い方で伝えることがある(佛りた(なるとりんご)と言うなど)	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	興味関心が強く狭い	レ	その他
		言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ)	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	相手の気持ちや状況の理解が難しい	レ	生かせる強みがある(☆欄から)
想像力	レ	返事が相手の言葉を繰り返すに限りやすい(反響言語)	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	言葉処理する速度が他者と異なる	レ	最初から正しい方法で学べる準備をする
		この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	その他	レ	予告を視覚的にを行い、成功につながる手がかりを提供する
想像力	レ	文法が使えない(単語・二語文)/使っても助詞(がのにを)を間違える	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	興味関心が強く狭い	レ	忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする
		視線が合わない/アイコンタクトが取れない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	集中しすぎると注意の移動が難しい	レ	変更の仕方等を統一する
想像力	レ	やり取りができない/かみあわない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	その都度判断するのが苦手である	レ	順番の提示なのか活動の選択なのかを明確にする
		やり取りが続かない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	部分的な処理が強く全体の理解が苦手である	レ	環境を整え、刺激を少なくする
想像力	レ	唐突に話し出す/自分が知っている相手も知っている前提で話をするので難しい	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	少しの遅いで大きな不安が生じる	レ	本人の興味関心に合わせて提示(ごまほひの活用)を行う
		理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	目から入った記憶に強く影響される	レ	ごまほひ等を活用して活動に意味をもたせる
想像力	レ	自分のルールを変えられることに抵抗がある/必要があっても変更できない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	目から入った記憶に強く影響される	レ	変わらないものは習慣化できるようにする
		日課が変わる、担当が変わる、場所が変わるなどの変更が弱い	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	手がかりが変わるとわからなくなる	レ	忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする
想像力	レ	活動の途中で止められると対応できない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう	レ	その他
		新規場面(初めてのことが)が苦手である	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	フラッシュバックと思われる混乱がある	レ	生かせる強みがある(☆欄から)
想像力	レ	段取りを組んだり、優先順位をつけることが苦手である	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	その他	レ	必要な刺激は保証する
		標識、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返し再生などの一部分に執着する	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	感覚に過敏がある	レ	苦手な刺激を少なくするための配慮(イヤーマフ・サングラスなど)をする
想像力	レ	必要があっても、自分の興味のないものに集中を示すことができない	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	感覚に鈍麻がある	レ	他刺激で用いるなど、強く危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を調べる
		細かいことが気になってびっくりする	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	感覚の入出力のコントロールが難しい	レ	避難場所の確保を行う
想像力	レ	声をかけても聞こえていないようにふるまうことがある	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	鈍麻さを持つための自己刺激行動がある	レ	その他
		同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	疲労やストレスが感覚に影響を与えている	レ	その他
想像力	レ	同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す/長時間続ける	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	その他	レ	その他
		自分なりの手順、日課、道順などの自分ルールが多くある	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	その他	レ	その他
想像力	レ	聴覚/耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがるなど	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	感覚に過敏がある	レ	生かせる強みがある(☆欄から)
		視覚/眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを鼻梁にかぶる、キラキラに没頭するなど	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	感覚に鈍麻がある	レ	必要な刺激は保証する
想像力	レ	触覚(同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、散髪などで激しく抵抗するなど)	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	感覚の入出力のコントロールが難しい	レ	苦手な刺激を少なくするための配慮(イヤーマフ・サングラスなど)をする
		嗅覚(臭覚)/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	鈍麻さを持つための自己刺激行動がある	レ	他刺激で用いるなど、強く危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を調べる
想像力	レ	味覚/辛い/腐食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	疲労やストレスが感覚に影響を与えている	レ	避難場所の確保を行う
		臭覚/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	その他	レ	その他
想像力	レ	その他/目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	その他	レ	その他
		その他/体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど	レ	ヘルパーが顔をのぞいても視線が合わない。	レ	その他	レ	その他
☆得意なこと・強み・できること・好きなことなど		食事は自分で食べることができる。食べる活動は嫌いではないようだ。 好きな店のロゴマークを見て笑ったり、好きな公園の写真を見て期待する素振りを見せたことがある。 ブランコ、乗り物に乗ること、歌を聴くことが好き。						

課題となっている行動

①場面「落ち着いて予定を確認できない。」

(本人の特性)

見えないものの理解が難しい  
視線や雰囲気から読みとるのは苦手  
である  
どこを見たらいいか、どこで活動し  
たらいいかわからない  
情報の多いものやその処理が苦手  
である

(環境・状況)

必要なサポート

**3. 動画より関連する環境や  
状況を記入します。**

課題となっている行動

①場面「落ち着いて予定を確認できない。」

(本人の特性)

見えないものの理解が難しい  
視線や雰囲気から読みとるのは苦手  
である  
どこを見たらいいか、どこで活動し  
たらいいかわからない  
情報の多いものやその処理が苦手  
である

(環境・状況)

ヘルパーは言葉で説明している  
いつもと違う状況で説明している  
気になるものが多い

必要なサポート

# 「冰山モデルシート」の作成



今回は、個人で作成します

使用シート「個人ワーク用冰山モデルシート」A4

③「購入する」、④「食べる」場面を使って個人で冰山モデルを作成します。

1. 課題となる行動はあらかじめ設定している。
2. 特性確認シートより関連する障害特性を記入する。
3. 動画より関連する環境や状況を記入する。

# 1. 課題となっている行動を記入します。

課題となっている行動

- ③場面「食べたいものを購入できない。」
- ④場面「ゆっくり落ち着いて食べられない。」

(本人の特性)

(環境・状況)

必要なサポート





## 2. 「特性確認シート」より関連する「障害特性」を記入します。

課題となっている行動

- ③場面「食べたいものを購入できない。」
- ④場面「ゆっくり落ち着いて食べられない。」

(本人の特性)

(環境・状況)

必要なサポート

### 3. 動画より関連する「環境や状況」を記入します。

課題となっている行動

- ③場面「食べたいものを購入できない。」
- ④場面「ゆっくり落ち着いて食べられない。」

(本人の特性)

(環境・状況)

必要なサポート

# 動画の視聴

# 「冰山モデルシート」の作成



今回は、グループで作成します

使用シート

「グループワーク用冰山モデルシート」A3

③「購入する」、④「食べる」場面を使ってグループで冰山モデルを作成します。

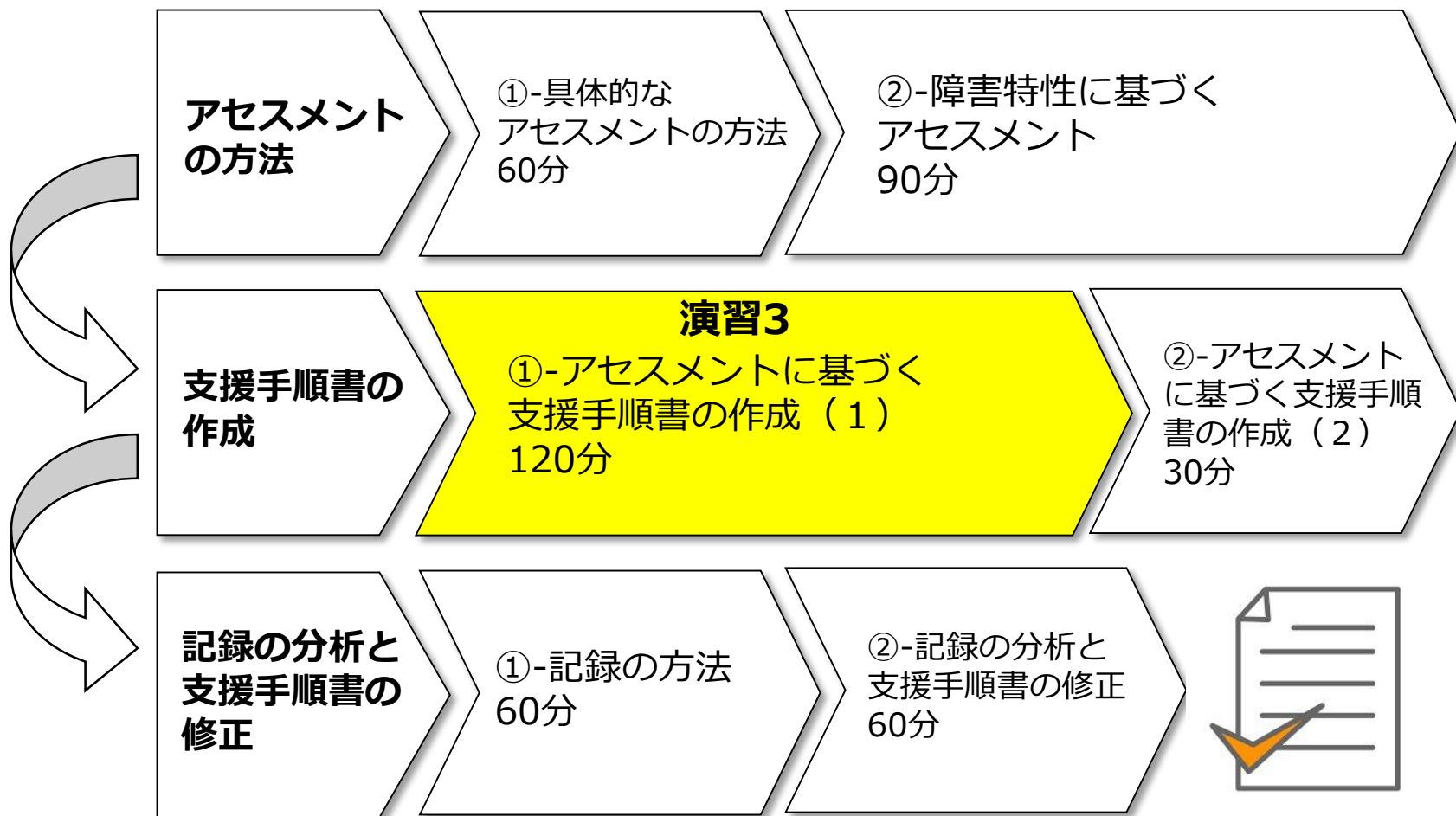
1. 個人ワークの共有
2. グループでまとめる

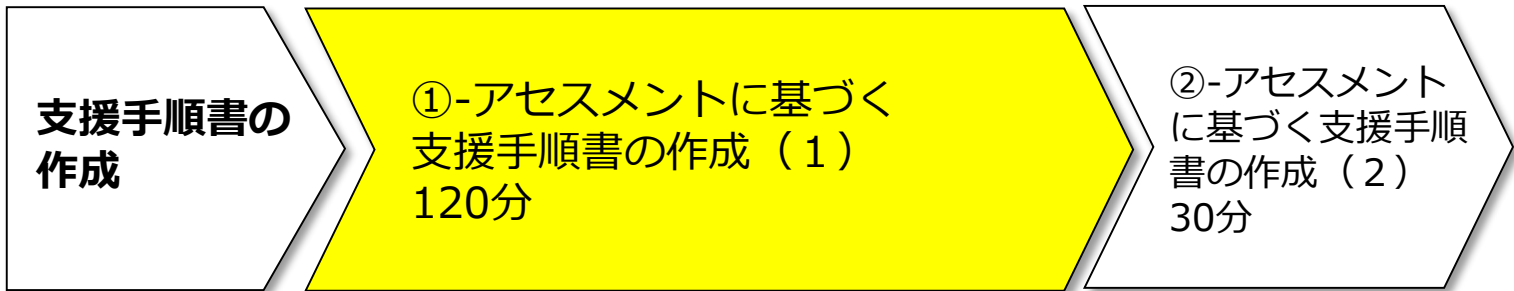


# **演習 3 支援手順書の作成**

## **①-アセスメントに基づく支援手順書の作成（1）**

# 演習の流れ





## i) 支援手順書の作成 (STさん)

- 冰山モデルの完成
- 活動の手順を決める
- 支援者の動きや必要な配慮を考える



# i ) 支援手順書の作成(STさん)

※今回使用するシートは、行動援護での支援手順書の一例です。支援手順書に、決まった様式はありません。

# 「冰山モデルシート」の作成



グループで作成します

③「購入する」、④「食べる」場面の冰山モデルを完成させます。

1. 特性確認シートの「支援のアイデア」を根拠に必要なサポートを記入する。

課題となっている行動

## ①場面「落ち着いて予定を確認できない。」

(本人の特性)

見えないものの理解が難しい  
視線や雰囲気から読みとるのは苦手  
である  
どこを見たらいいか、どこで活動し  
たらいいかわからない  
情報の多いものやその処理が苦手  
である

(環境・状況)

ヘルパーは言葉で説明している  
いつもと違う状況で説明している  
気になるものが多い

必要なサポート

特性確認シートの「支援の  
アイデア」の内容を根拠に  
して具体的なサポートの  
方法を記入する。

(例)

☑本人が理解できる見える情報（文章,単語,絵,写真,シンボル,具体物など）で伝える  
→ 「 \_\_\_\_\_ 」

# 活動の手順を決める

スケジュールを考える（場面を分ける）

「外出する」という活動を、  
場面ごとに分けてみます。

外出する

予定を確認する

移動する

購入する

食べる

片づける

帰宅する

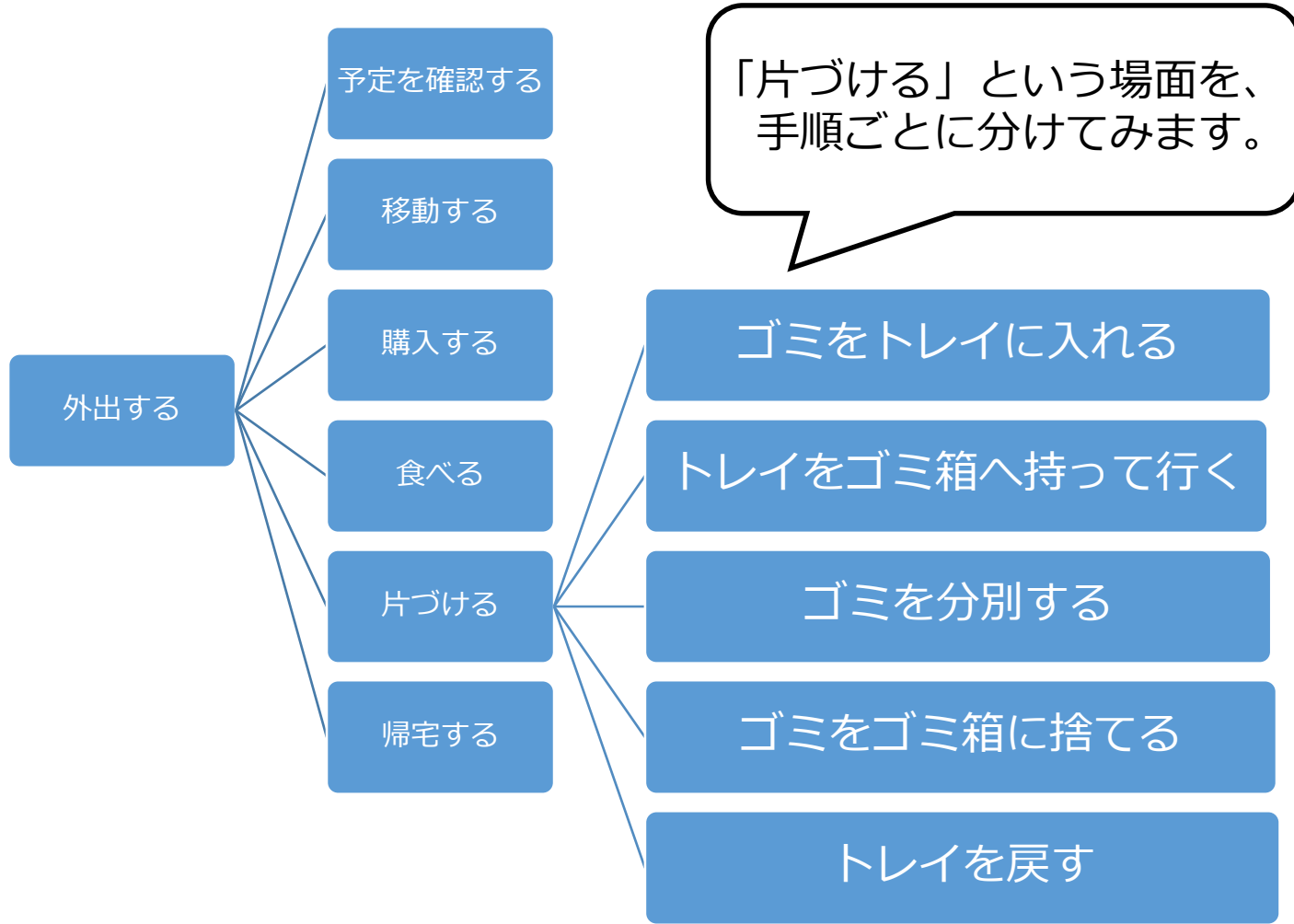
# スケジュールを考える (場面を分ける)

利用者指名 S・T 様

支援手順書 兼 記録用紙

日 付：〇〇年〇月〇日 記入者：〇〇			
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備			
① 予定を確認する			
② 移動する			
③ 購入する			
④ 食べる			
⑤ 片づける			
⑥ 帰宅する			

# 手順を考える（工程を分ける）



# 手順を考える (工程を分ける)

利用者指名 S・T 様

## 支援手順書 兼 記録用紙

日 付：〇〇年〇月〇日 記入者：〇〇			
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備			
① 予定を確認する			
② 移動する			
③ 購入する			
④ 食べる			
⑤ 片づける	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px;">1. ゴミをトレイに入れる。 2. トレイをゴミ箱に持っていく。 3. ゴミを分別する。 4. ゴミをゴミ箱に捨てる。 5. トレイを戻す。</div>		
⑥ 帰宅する			

# 身近なことの手順を考えてみましょう

カップラーメンを作る手順  
を考えてみましょう。

1.

2.

3.

4.

5.

.

.

.



# 活動の手順を考える



今回は、個人で作成します

使用シート「個人ワーク用支援手順書」A4

・購入する場面      ・食べる場面

③「購入する」、④「食べる」場面を使って手順を考えます。

1. 手順（工程）を考えて支援手順書に記入します。

# 1. 手順（工程）を考えて支援手順書に記入します。

利用者指名 ST 様

## 支援手順書 兼 記録用紙

日 付：〇〇年〇月〇日 記入者：〇〇			
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備			
① 予定を確認する			
② 移動する			
③ 購入する			
④ 食べる			
⑤ 片づける			
⑥ 帰宅する			

# 活動の手順を決める



今回は、グループで作成します

使用シート「グループワーク用支援手順書」A3

・購入する場面 ・食べる場面

③「購入する」、④「食べる」場面を使ってグループで手順を決めます。

1. 個人ワークの共有
2. グループでまとめる

# 支援者の動きや必要な配慮を考える

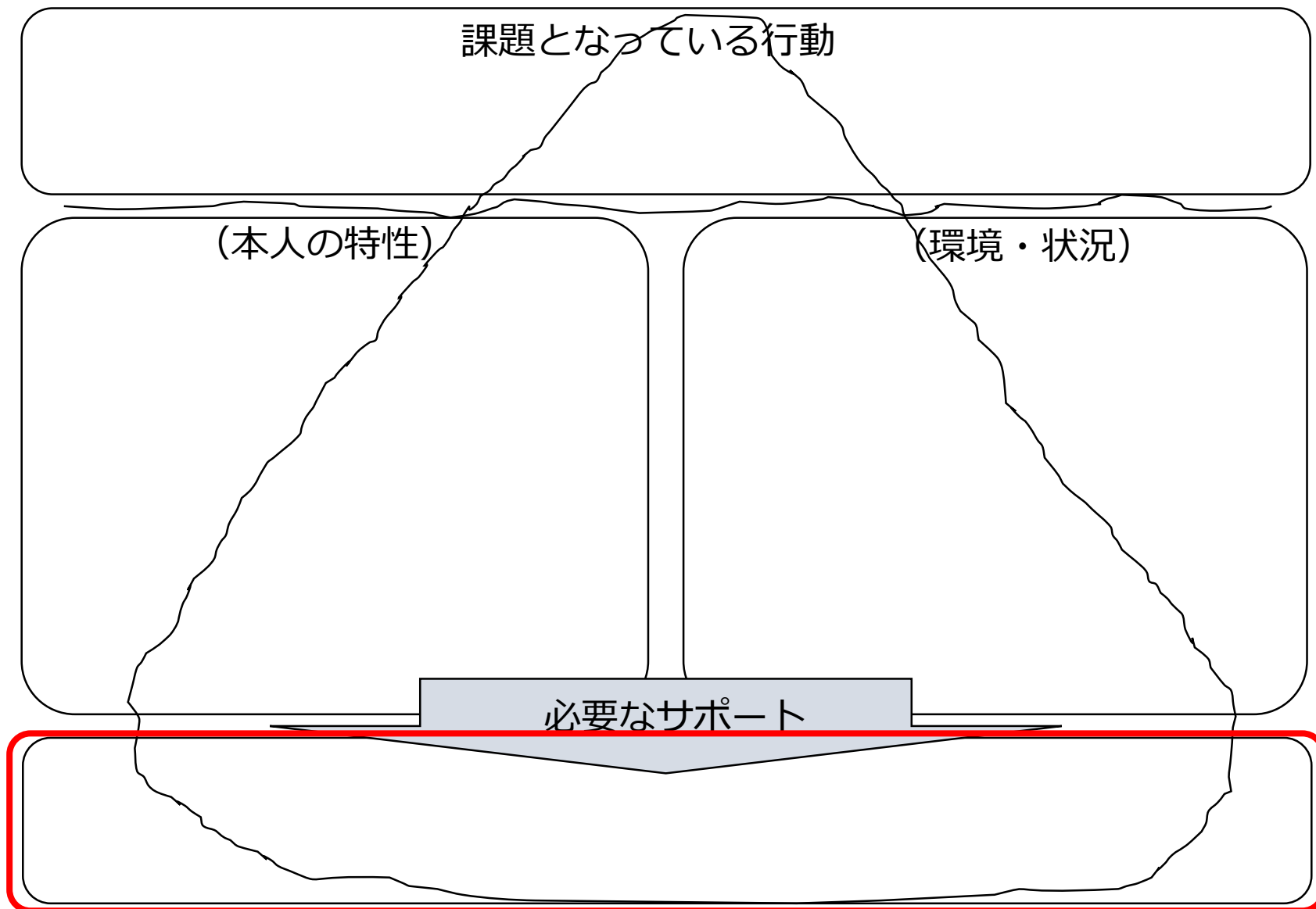


今回は、個人で作成します

③「購入する」、④「食べる」場面を使って、個人で支援手順書を記入します。

1. 必要なサポートを根拠に、支援者の動きや必要な配慮を記入する。
2. 当日の事前準備を記入する。
3. 当日までに準備しておくことを記入する。

# 1. 必要なサポートを根拠に、支援者の動きや必要な配慮を記入します。



# 1. 必要なサポートを根拠に、支援者の動きや必要な配慮を記入します。

利用者指名 S・T 様

## 支援手順書 兼 記録用紙

日 付：〇〇年〇月〇日 記入者：〇〇			
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備			
① 予定を確認する			
② 移動する			
③ 購入する			
④ 食べる			
⑤ 片づける	1. ゴミをトレイに入れる。  2. トレイをゴミ箱に持っていく。  3. ゴミを分別する。  4. ゴミをゴミ箱に捨てる。  5. トレイを戻す。	見てわかるように指差してゴミをトレイに入れるように指示する。 ヘルパーがトレイを少し持ち上げ、本人が持つように促す。  ヘルパーが先にゴミ箱まで行き、トレイを置く場所を指差して示す。  ヘルパーが分別の方法を指差して示し、本人に分別してもらう。  ヘルパーがゴミ箱を指差して示して、分別されたゴミを正しい場所に捨てられるようにする。  ヘルパーがトレイを重ねる場所を指差して示して、自分で重ねられるようにする。	
⑥ 帰宅する			

# 2. 当日の事前準備を記入します。

利用者指名 S・T 様

## 支援手順書 兼 記録用紙

日 付: 〇〇年〇月〇日 記入者: 〇〇			
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子 (記録)
事前準備			
① 予定を確認する			
② 移動する			
③ 購入する			
④ 食べる			
⑤ 片づける	1. ゴミをトレイに入れる。  2. トレイをゴミ箱に持っていく。  3. ゴミを分別する。  4. ゴミをゴミ箱に捨てる。  5. トレイを戻す。	見てわかるように指差してゴミをトレイに入れるように指示する。 ヘルパーがトレイを少し持ち上げ、本人が持つように促す。  ヘルパーが先にゴミ箱まで行き、トレイを置く場所を指差して示す。  ヘルパーが分別の方法を指差して示し、本人に分別してもらう。  ヘルパーがゴミ箱を指差して示して、分別されたゴミを正しい場所に捨てられるようにする。  ヘルパーがトレイを重ねる場所を指差して示して、自分で重ねられるようにする。	
⑥ 帰宅する			

# 3. 当日までに準備しておくことを記入します。

当日までに準備しておくことも考えます。

- (1) 事前に外出先で確認しておくこと
- (2) 支援ツールなど事前に作っておくもの・用意しておくものなど

※支援手順書の枠外に記載してください。

利用者指名 S・T 様

## 支援手順書 兼 記録用紙

日付：〇〇年〇月〇日 記入者：〇〇			
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備			
① 予定を確認する			
② 移動する			
③ 購入する			
④ 食べる			
⑤ 片づける	1. ゴミをトレイに入れる。 2. トレイをゴミ箱に持っていく。 3. ゴミを分別する。 4. ゴミをゴミ箱に捨てる。 5. トレイを戻す。	見てわかるように指差してゴミをトレイに入れるように指示する。 ヘルパーがトレイを少し持ち上げ、本人が持つように促す。 ヘルパーが先にゴミ箱まで行き、トレイを置く場所を指差して示す。 ヘルパーが分別の方法を指差して示し、本人に分別してもらおう。 ヘルパーがゴミ箱を指差して示して、分別されたゴミを正しい場所に捨てるようにする。 ヘルパーがトレイを重ねる場所を指差して示して、自分で重ねられるようにする。	
⑥ 帰宅する			



■ 外出先で確認することリスト

■ 事前に作っておくものリスト



# 支援者の動きや必要な配慮を考える



今回は、グループで作成します

③「購入する」、④「食べる」場面を使ってグループで支援手順書を完成させます。

1. 個人ワークの共有
2. グループでまとめる

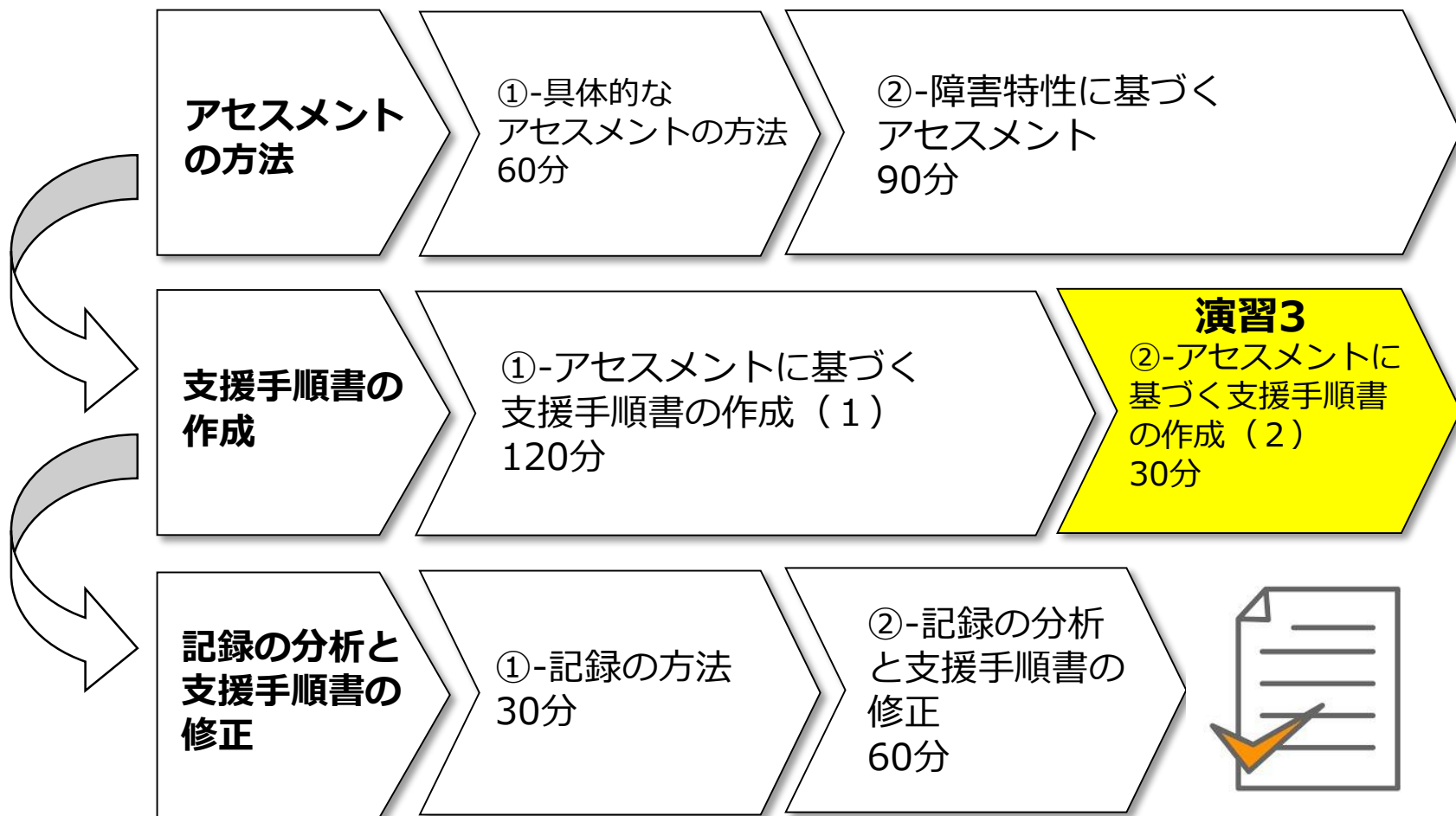
# 発 表

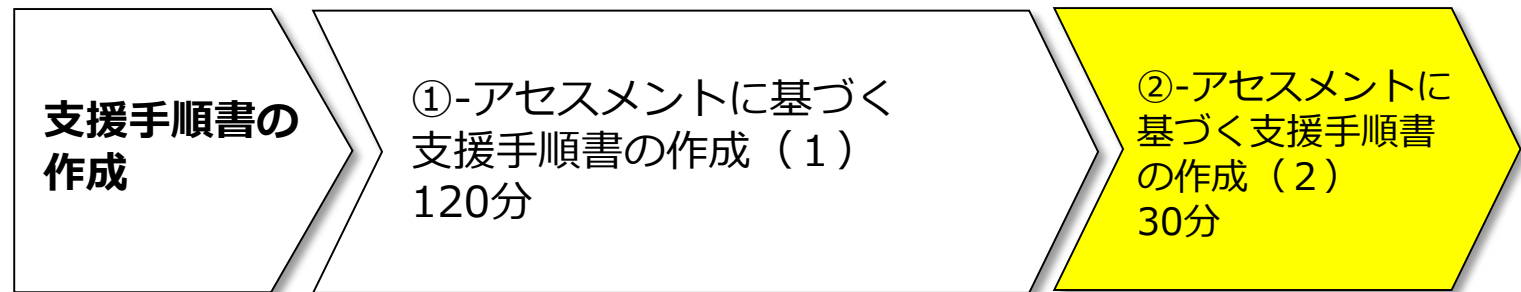
1. 活用した氷山モデルの必要なサポート
2. 当日までに準備しておくこと
3. 当日の事前準備の内容
4. 活動の手順と支援者の動きや必要な配慮

# **演習 3 支援手順書の作成**

## **②-アセスメントに基づく支援手順書の作成（2）**

# 演習の流れ





- i ) 事例の紹介 (AHさん)
- ii ) 強度行動障害に対応する支援を組み立てる

強度行動障害への支援の基本は、冰山モデルなどを活用し、本人の障害特性に配慮した予防的な支援を組み立てることです。

その他にも、行動がどのような**状況**で生じ、どのような**結果**をもたらしているかという点に注目する支援手順書の作成方法もあります。

そこでここからは、行動が起きている「状況」と「結果」に注目する支援手順書の作成方法、具体的には

**「行動記録用紙」と「ストラテジーシート」**

を使った支援手順書の作成方法をご紹介します。

# i) 事例の紹介

名前：A Hさん

年齢：37歳

性別：男性

診断名：自閉スペクトラム症

IQ:30

利用サービス：施設入所支援・生活介護

A Hさんは、普段は職員との言葉遊びを要求したり、ゲームの話をしたりと、他者とのコミュニケーションを楽しんだりしています。職員からほめられるとうれしそうな表情をします。缶コーヒーに付いているシールを紙に貼って喜んでいる様子もうかがえます。

しかし、行動が停止すると表情が厳しくなり、耳をふさいで、時には数時間も同じ姿勢でいることもあります。促すと激しい他害行為に及ぶこともあります。また、洋服を破ってしまう事も頻回にあり、破った洋服を持ってきては着替えの要求をします。突発的な自傷行為もあり壁に頭突きをしたり、自分の顔をこぶしで殴って歯が折れることもありました。

文字を使ったスケジュールやデジタル時計の理解はできません。コーヒーや甘いお菓子が好きで、飲んだり食ったりしている時にはうれしそうな表情をしています。



## ii) 強度行動障害に対応する支援を 組み立てる

参考シート

「行動記録用紙」 A4

「ストラテジーシート」 A4

「AHさん行動記録用紙」 A4 (自立課題の時に自分の顔を叩く)

「AHさん支援手順書」 A4

強度行動障害に対応する支援を組み立てる手順の例

1. ターゲットとする行動の決定
2. 行動に名前をつける
3. 行動を記録する
4. 行動の機能を推定する
5. ストラテジーシートの作成
6. 支援手順書の作成

# 手順 1. ターゲットとする 行動の決定

1. ターゲットとする行動の決定
2. 行動に名前をつける
3. 行動を記録する
4. 行動の機能を推定する
5. ストラテジーシートの作成
6. 支援手順書の作成

課題となっていてアプローチしたい行動を  
決めます。

複数の行動ではなく、ひとつの行動に絞っ  
てアプローチすることが大切です。

# AHさんのターゲットとする行動

AHさんは一日に何度も自分の顔を叩いてしまう（以下、自傷）ことがあります。そこでどのような時に自傷が多いか確認してみると、生活介護事業所で自立課題をしている時に多いことが分かりました。

AHさんは作業能力も高く、自立課題は嫌いではないようですが、最近、なぜか自立課題をしている時に、自傷が続いています。自傷をし始めると自立課題ができなくなり、できなくなったことを後から気にする様子も見られます。



今回は、自立課題の時に自分の顔を叩いてしまう行動を取り上げます。

1. ターゲットとする行動の決定
2. 行動に名前をつける
3. 行動を記録する
4. 行動の機能を推定する
5. ストラテジーシートの作成
6. 支援手順書の作成

## 手順 2. 行動に名前をつける

行動を具体化し名前を付けることで、

- 課題となる行動が明確になります。
- 課題を共有・共通理解しやすくなります。
- 一貫した対応がしやすくなります。
- 記録がしやすくなります。
- 対応の効果（増減）がわかりやすくなります。

# 行動に名前をつけるときのポイント

- やさしく、簡単かつシンプルで、誰もがイメージしやすい言葉で設定します。
- 抽象的でなく、何をしているかを明確にします。
  - (×) パニックになる
  - (○) 床に寝そべって奇声をあげる
- 否定形ではなく、何をしているかを明確にします。
  - (×) 指示に従わない
  - (○) 朝の散歩に誘うと床に寝転ぶ
  - (○) 作業中に部屋を出ていく
- 本人の尊厳を傷つけるような言葉は避けます。
  - (×) ウンチを顔に塗ってよろこぶ

AHさんのターゲットとした行動の名前

「自立課題の時に自分の顔を叩く」

1. ターゲットとする行動の決定
2. 行動に名前をつける
3. 行動を記録する
4. 行動の機能を推定する
5. ストラテジーシートの作成

## 手順3. 行動を記録する

強度行動障害への支援を組み立てるうえでは、「行動の具体的な記録を取る」ことが有効です。

行動の具体的な記録を取ることで、

- ・ 起こる場面が予測可能になる
- ・ 行動の機能が推定できる
- ・ 起きていない場面に潜む良い条件に気づく
- ・ 対応の準備がしやすくなる
- ・ 指導やアプローチの成果がわかる

ここでは「行動記録用紙」を使用します。





# 「行動記録用紙」

## 行動記録用紙

氏名：

ターゲットとした行動 (B)：

日付	先行事象 (A)	誰に・何に	何をした (B)	結果事象 (C)	対応後の本人の様子・その他の気づき	記録者
	②		①	③		

行動記録用紙は記載が多いほど良いですが、ある程度標準的な流れが見えてきたら記録した行動の分析を行います。

# AHさんの「行動記録用紙」

## 行動記録用紙

氏名： AHさん

ターゲットとした行動 (B)： 自立課題の時に自分の顔を叩く

日付	先行事象 (A)	誰に・何に	何をした (B)	結果事象 (C)	対応後の本人の様子・その他の気づき	記録者
〇月〇日 (月)	自立課題をするように口頭で促した	支援員K	課題を壁に投げつけて、自分の顔を叩く	課題は壊れてできなかった	後から課題を投げたことを気にして、職員に投げたねーと言ってきている	K
〇月〇日 (土)	自立課題を始めた時に、他の利用者の笑い声が聞こえた	支援員K	大声を上げながら、自分の顔を叩く	自立課題は中止された	課題を気にしてエリアに戻るとする様子が見られた	K
〇月〇日 (金)	自立課題をしている途中で、支援者が早くするように口頭で声掛けをした	支援員Y	自立課題を叩き壊し、自分の顔を叩く	違う課題を渡された	お仕事はやくしようねと独り言を言い、表情が険しいことが続いた	Y
〇月〇日 (火)	作業エリアに入ったときに、自立課題をするように口頭で伝えた	支援員P	壁を叩いたあとに、自分の顔を叩く	自立課題は中止された	しばらく苛々した様子が続いた	P

# その他の記録方法の例

# スキャッタープロットによる記録

<観察する行動>

①髪の毛を引っ張る

②突然触る

③いやがることを言う



起こりやすい  
時間がわかる

起こりやすい  
パターンがわか  
る

# 行動観察シートによる記録

## 行動観察シート

月 日( )

No. \_\_\_\_\_

対象児名 \_\_\_\_\_

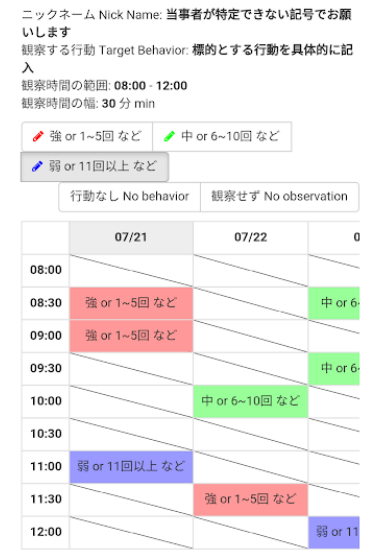
観察者名 \_\_\_\_\_

時間	状況・きっかけ (いつ? 誰といる時? 何をしている時? どこ にいる時?)	行動 (具体的に)	どう対処したか	行動はどうなったか

# アプリによる記録

近年は、タブレットやスマートフォンで行動の記録ができるアプリが開発されています。

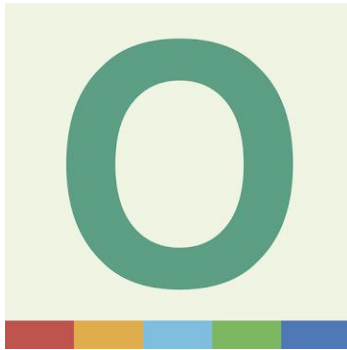
- アプリで行動の記録を取ることで、
- ・記録の手間が省力化できる。
  - ・データとして蓄積ができる。
  - ・グラフなどの出力が簡単にできる。
- などのメリットがあります。



(アプリの例)

「Observations (オブザーベーション)」

井上雅彦先生 (鳥取大学)

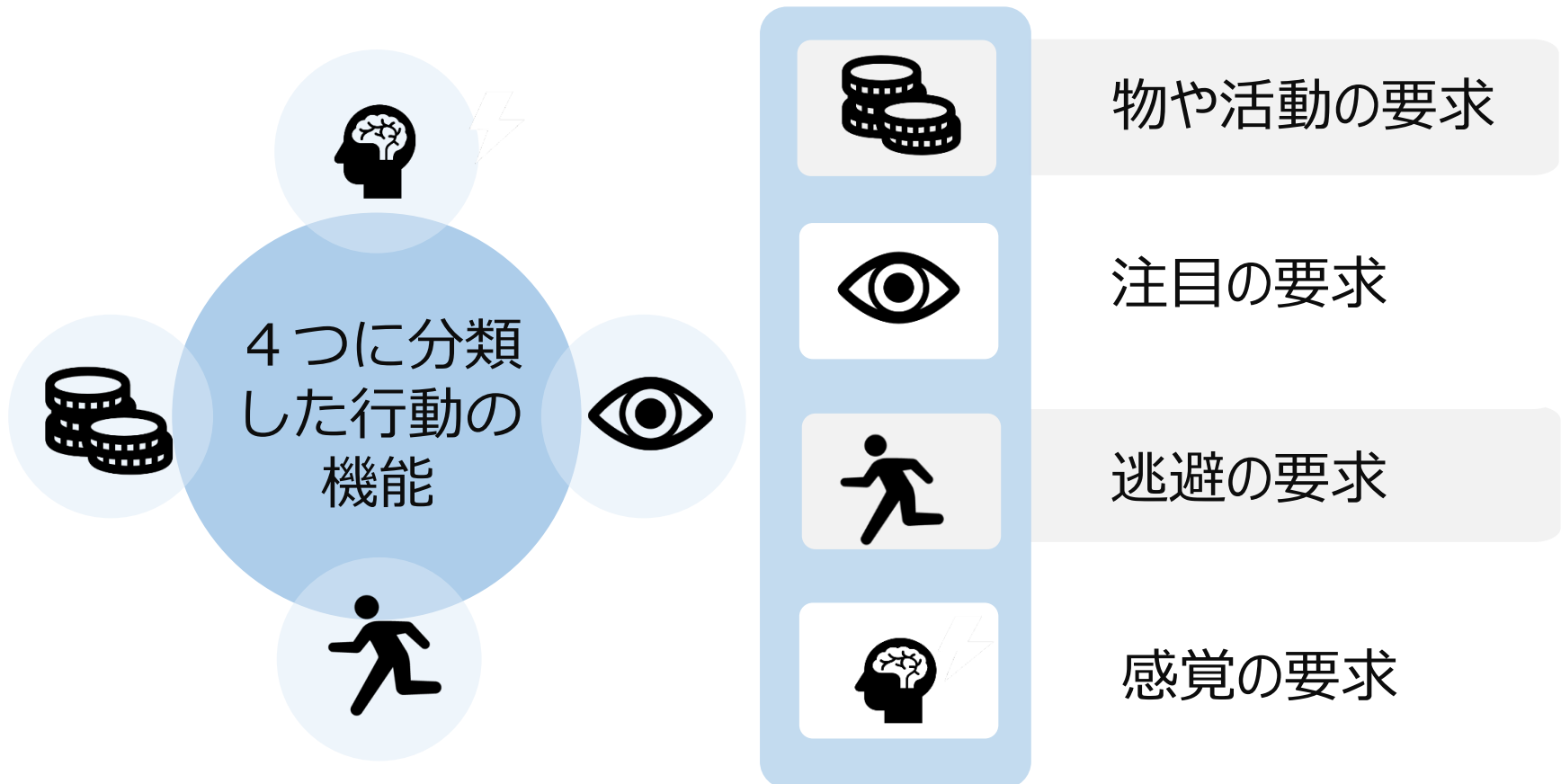


「知的障害や発達障害のある人の行動上の困難を解決・支援していくための支援者用記録アプリです。支援者が定義した行動を日常的に記録し、グラフ化することで治療効果をモニターすることができます。」

1. ターゲットとする行動の決定
2. 行動に名前をつける
3. 行動を記録する
4. 行動の機能を推定する
5. ストラテジーシートの作成
6. 支援手順書の作成

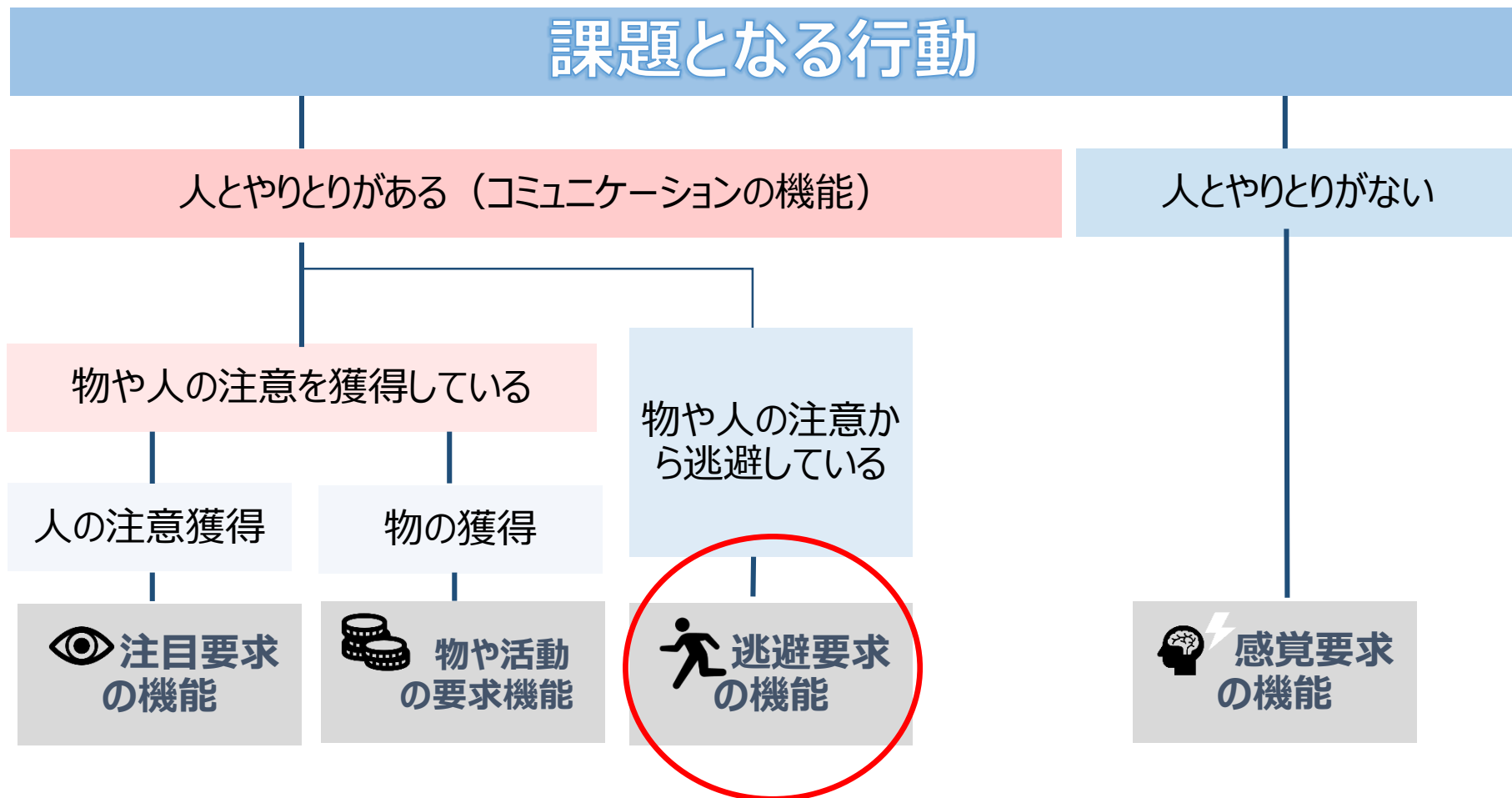
# 手順4. 行動の機能を推定する

## 4つに分類した行動の機能





# A Hさんのターゲットとした行動の機能



1. ターゲットとする行動の決定
2. 行動に名前をつける
3. 行動を記録する
4. 行動の機能を推定する
5. ストラテジーシートの作成
6. 支援手順書の作成

## 手順5. ストラテジーシートの作成

### 「ストラテジーシート」とは

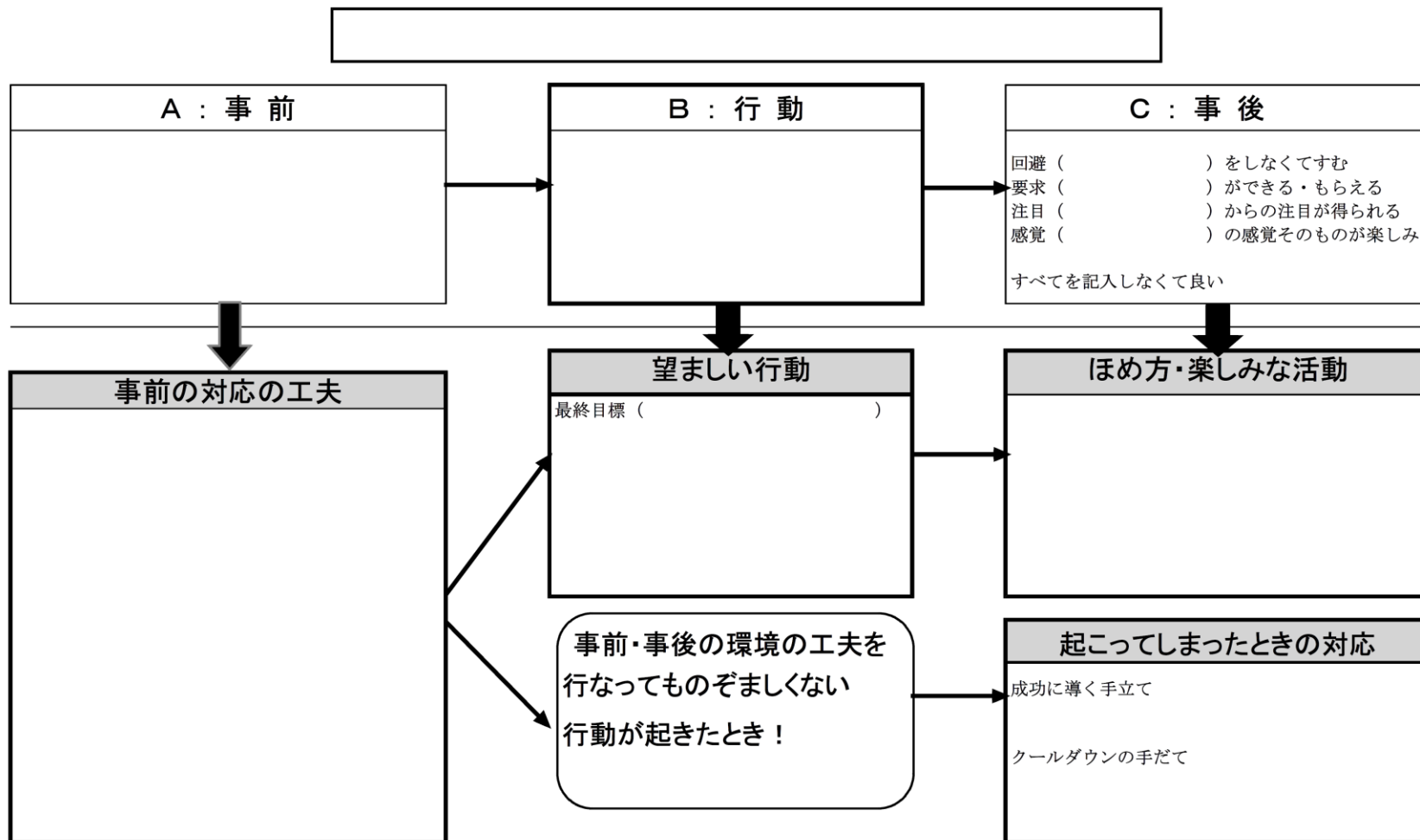
ストラテジー（Strategy）とは「戦略・目的達成のための方策・方法」の意味です。

ストラテジーシートは行動をもとに行動障害の背景を考え、対応策を考えるのに適しています。

ストラテジーシートは、行動への対応をチームで考え、共通理解するときに活用できるフレームワークです。

# 「ストラテジーシート」

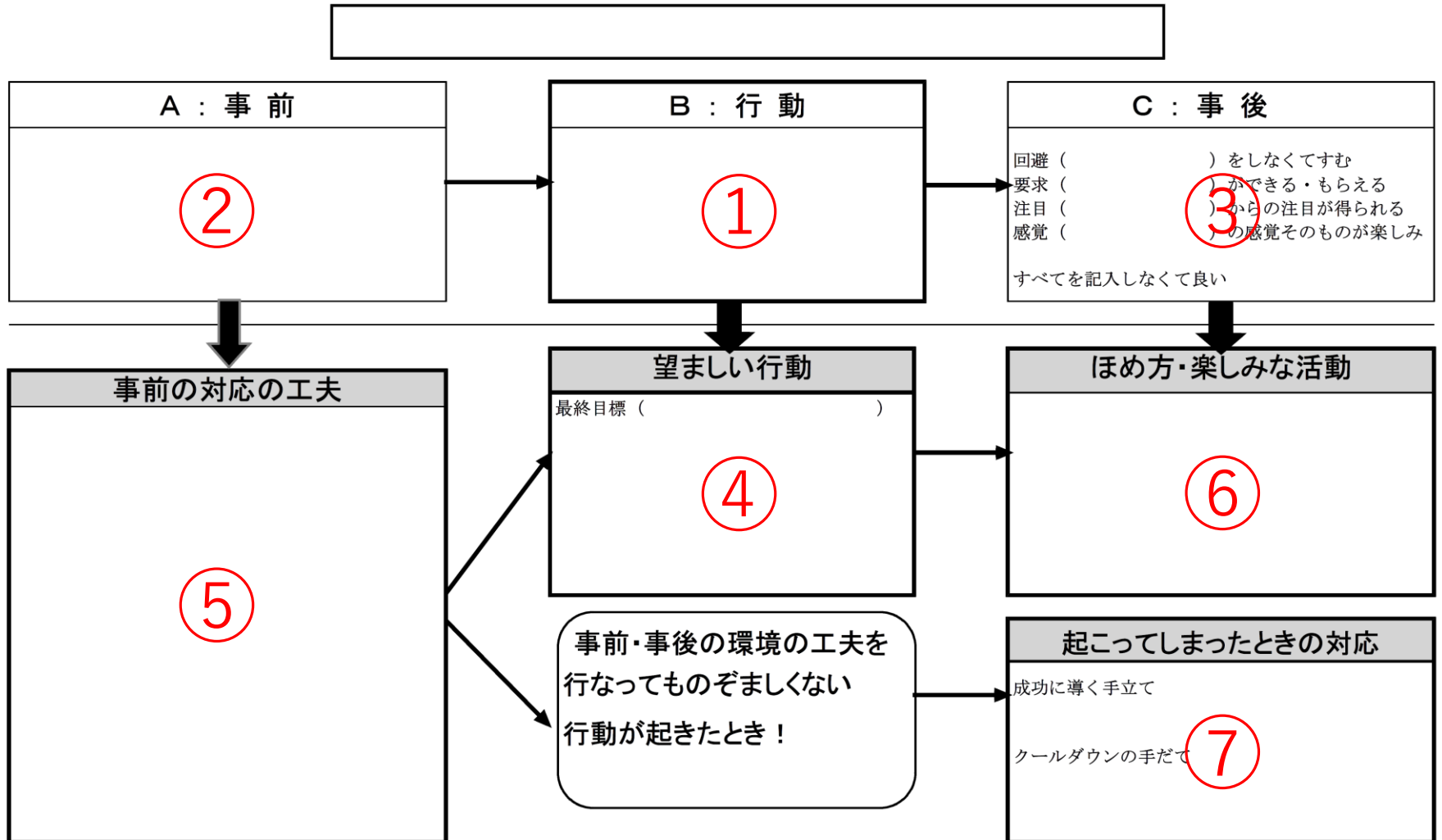
ストラテジーシート ver. 3.0 【記入日 年 月 日】 【氏名 氏名】



# ストラテジーシート の作成方法

※①～⑦の順に記入します。

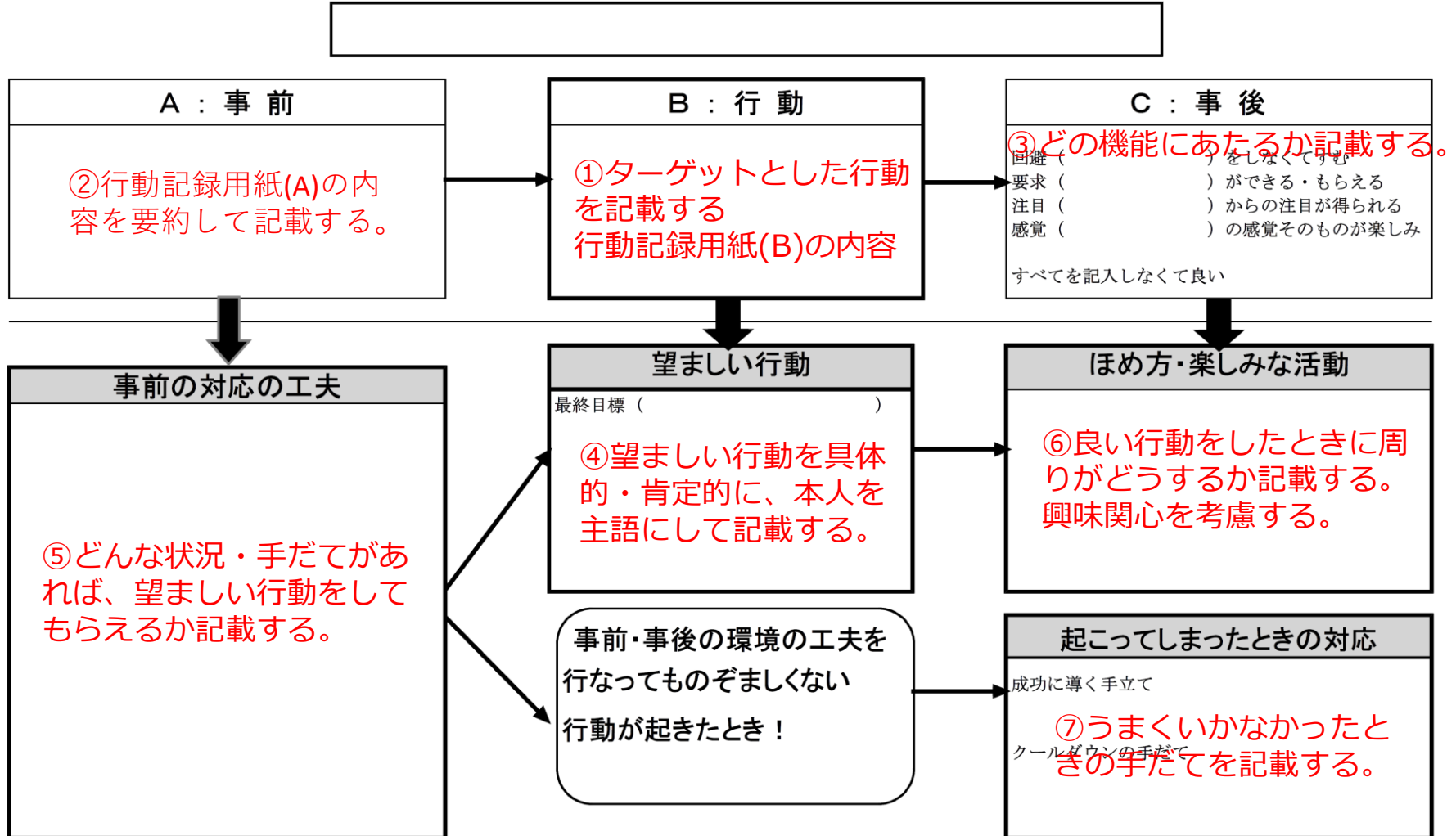
ストラテジーシート ver. 3.0 【記入日 年 月 日】 【氏名 】



# ストラテジーシートの作成方法

※それぞれの項目の内容

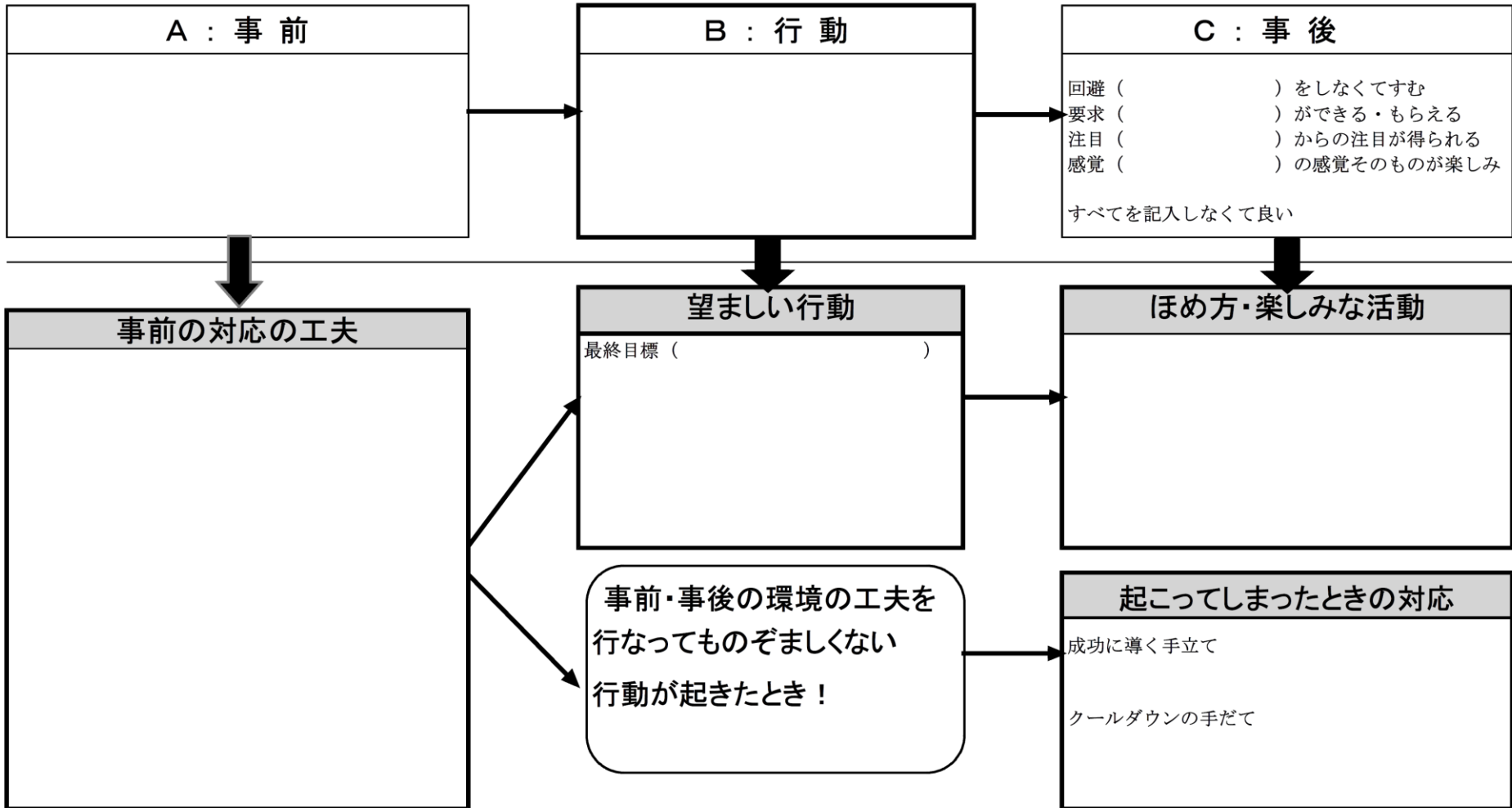
ストラテジーシート ver. 3.0 【記入日 年 月 日】 【氏名 】



# 【AHさんの場合】

ストラテジーシート ver. 3.0 【記入日 年 月 日】 【氏名 氏名】

自立課題の時に自分の顔を叩く



# 手順 6. 支援手順書の作成

## ストラテジーシートに基づく 支援手順書の例

強度行動障害に対応する支援を組み立てる手順の例

1. ターゲットとする行動の決定
2. 行動に名前をつける
3. 行動を記録する
4. 行動の機能を推定する
5. ストラテジーシートの作成
- 6. 支援手順書の作成**

利用者氏名：AHさん

支援手順書 兼 記録用紙

【自立課題】

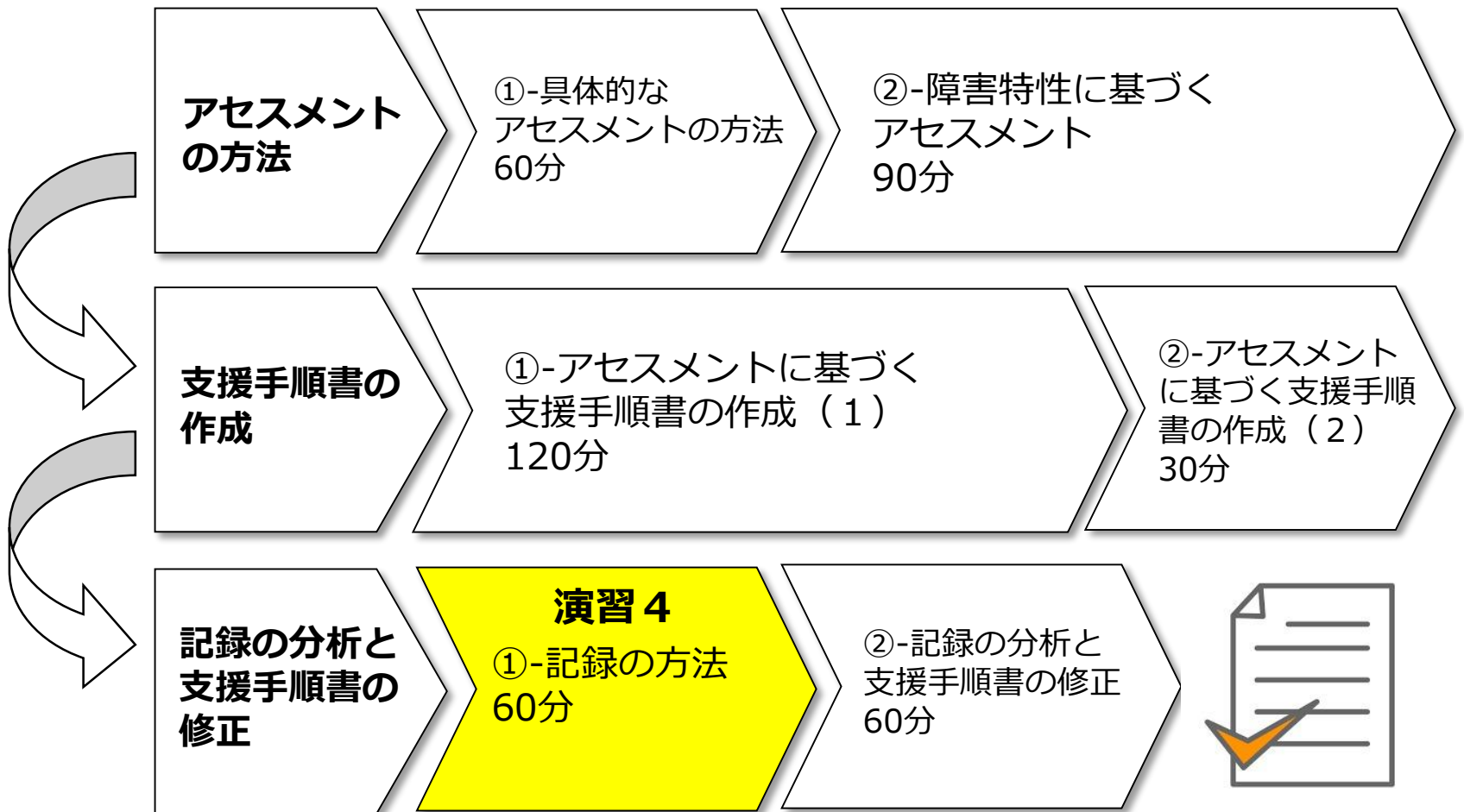
日付：〇〇年〇〇日 記入者：〇〇			
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備		・自立課題を作業エリアに準備しておく ・ご褒美シールを準備しておく	
作業エリアに行く	スケジュールを見て作業エリアに移動する	※部屋から移動せずに止まってしまっている時（5分以上）は、声掛けはせずに、再度「自立課題」のスケジュールを指差し	
自立課題をする	自立課題をする	見守り ※片付けずに5分以上止まっている場合は、食器を指差しする	
自室にもどる	自室にもどる	見守り	
ご褒美シール	ご褒美シールを台紙に貼る	ご褒美シールを手渡す シールを貼っている間は見守り	
スケジュールチェック	スケジュールをチェックする	見守り	

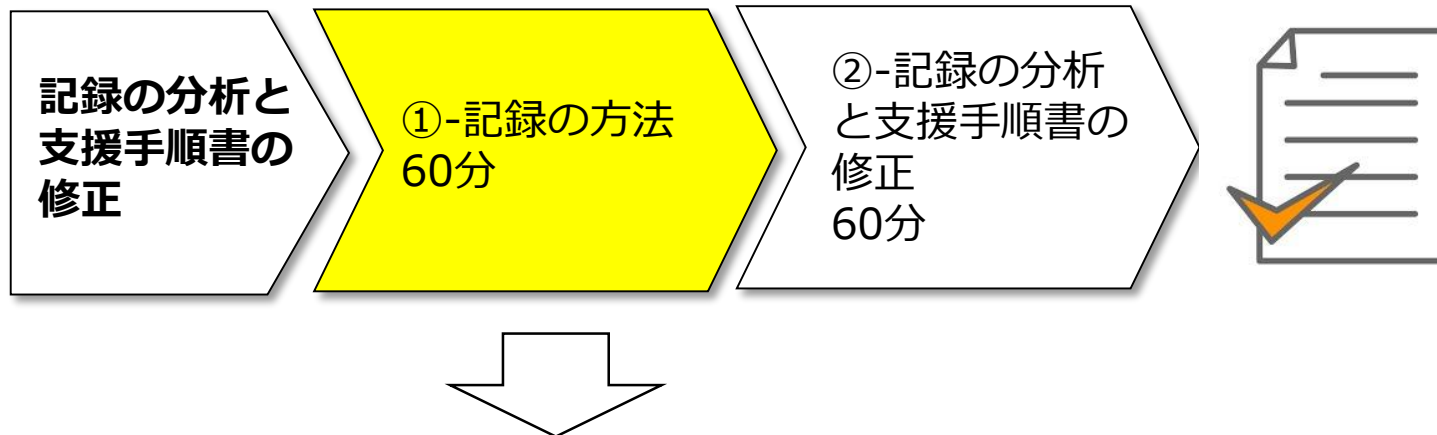
# 演習 4 記録の分析と支援手順書の修正

## ①-記録の方法



# 演習の流れ





i ) 記録に基づく支援の振り返り

- 支援の振り返りと修正の重要性
- STさんの支援の記録

**i ) 記録に基づく支援の振り返り**

# 支援の振り返りと修正の重要性

## ■ 正確なアセスメントの難しさ

本人はコミュニケーションや自分自身で振り返ることが苦手（自閉症の特性）

支援現場には誤学習や混乱を助長する環境がある場合もある

## ■ 支援の修正（再構造化）の重要性

支援者は、できるだけ**客観的**な情報を集め、  
仮説に基づき支援を考える。

（＝支援手順書の作成）

支援を実施し、結果を振り返る**プロセス**の中  
で成果を確認し、アセスメントを深める

（＝支援手順書の修正）

**スモールステップ**でより良い支援を作り上げていく。

実施した記録が  
重要

# STさんの支援の記録



今回は、個人で作成します

使用シート「個人ワーク用STさん支援手順書」A4  
「グループワーク用STさん支援手順書」A3

1. 支援手順書の確認
2. 動画の視聴
3. 支援手順書の記録の記入

# STさんの支援手順書

ヘルパーステーション〇〇〇

利用者氏名：STさん

## 支援手順書 兼 記録用紙

日付：〇〇年〇〇日 記入者：〇〇

スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備		スケジュールカード、台紙の準備 お金の準備 カバンの準備	
予定を確認する	予定を聞く（見る） カバンを背負う 出発する	カードを見せながら読みあげ、台紙に貼っていく。 セブンイレブンで買うものをカードで提示して台紙に貼る。 パウダームで食べるものをカードで選択してもらい台紙に貼る。	
公園に移動する	公園まで歩く	ブランコのカードを渡して持ってもらおう。 ヘルパーは車道側を歩く。 公園に着いたら持っているカードを台紙のボックスに入れてもらう。	
ブランコに乗る	ブランコのところに行く ブランコに乗る 出発する	ブランコに乗られている間は近くに立って見守り。 終了1分前にタイマーをセットする。 タイマーがなったら本人に止めてもらう。 次の予定を見せて、ヘルパーが読み上げながら確認してもらう。	
セブンイレブンに移動する	セブンイレブンまで歩く	セブンイレブンと買う物のカードを渡して持ってもらおう。 ヘルパーは車道側を歩く。 セブンイレブンについたら持っているカードを台紙のボックスに入れてもらう。	
商品を選ぶ	店内に入る カゴを持つ 商品のところに行く 商品をカゴに入れる	店内に入ったらヘルパーでカゴを指差して示して本人に持ってもらおう。 店内ではヘルパーが前を歩いて誘導する。 購入する商品をヘルパーで指差して示してカゴに入れてもらう。	
購入する	カゴを置く お金を渡す おつりとレシートを受け取る 商品を受け取る 出発する	カゴを置く場所をヘルパーで指差して示して置いてもらう。 お金を本人に渡して払ってもらおう。 おつりとレシートを本人に受け取ってもらい、ヘルパーに渡してもらう。 本人に商品を受け取ってもらい、ヘルパーに渡し	

# 動画の視聴



# 支援手順書の記録 の記入

ヘルパーステーション〇〇〇			
利用者氏名：S・Tさん			
支援手順書 兼 記録用紙			
日付：〇〇年〇〇日 記入者：〇〇			
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備		スケジュールカード、台紙の準備 お金の準備 カバンの準備	
予定を確認する	予定を聞く（見る） カバンを背負う 出発する	カードを見せながら読みあげ、台紙に貼っていく。 セブンイレブンで買うものをカードで提示して台紙に貼る。 パワードームで食べるものをカードで選択してもらい台紙に貼る。 スケジュールを確認したらカバンを渡す。	
公園に移動する	公園まで歩く	ブランコのカードを渡して持ってもらう。 ヘルパーは車道側を歩く。 公園に着いたら持っているカードを台紙のボックスに入れてもらう。	
ブランコに乗る	ブランコのところに行く ブランコに乗る 出発する	ブランコに乗られている間は近くに立って見守り、終了1分前にタイマーをセットする。 タイマーがなったら本人に止めてもらう。 次の予定を見せて、ヘルパーが読み上げながら確認してもらう。	
セブンイレブンに移動する	セブンイレブンまで歩く	セブンイレブンと買う物のカードを渡して持ってもらう。 ヘルパーは車道側を歩く。 セブンイレブンについたら持っているカードを台紙のボックスに入れてもらう。	
商品を選ぶ	店内に入る カゴを持つ 商品のところに行く 商品をカゴに入れる	店内に入ったらヘルパーでカゴを指差して示して本人に持ってもらう。 店内ではヘルパーが前を歩いて誘導する。 購入する商品をヘルパーで指差して示してカゴに入れてもらう。	
購入する	カゴを置く お金を渡す おつりとレシートを受け取る 商品を受け取る 出発する	カゴを置く場所をヘルパーで指差して示して置いてもらう。 お金を本人に渡して払ってもらい、おつりとレシートを本人に受け取ってもらい、ヘルパーに渡してもらう。 本人に商品を受け取ってもらい、ヘルパーに渡してもらう。ヘルパーで商品をカバンに入れる。	

# 支援手順書の記録の共有



今回は、グループワークをします

1. 役割分担（司会・記録・発表）
2. 個人ワークの共有

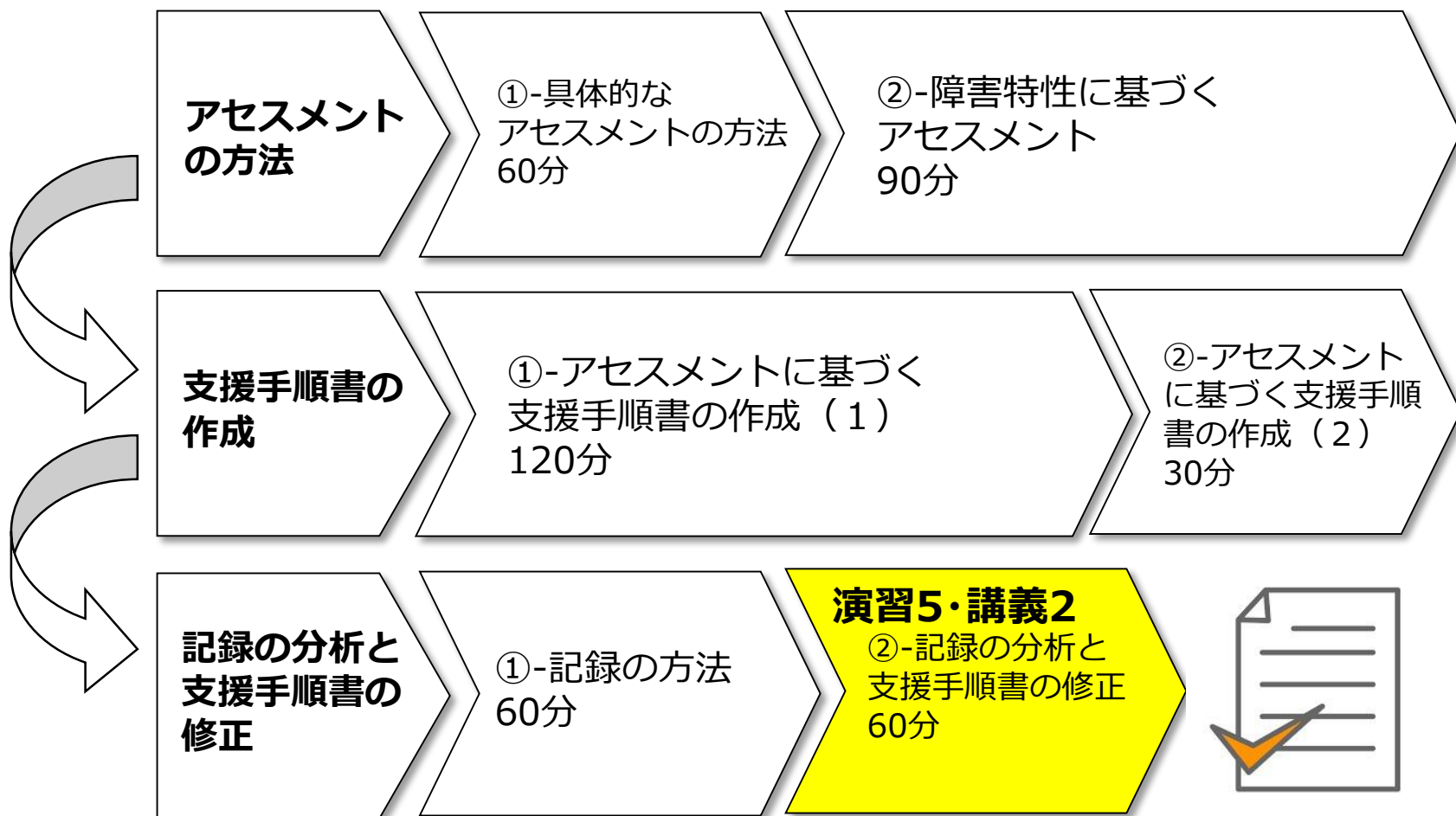


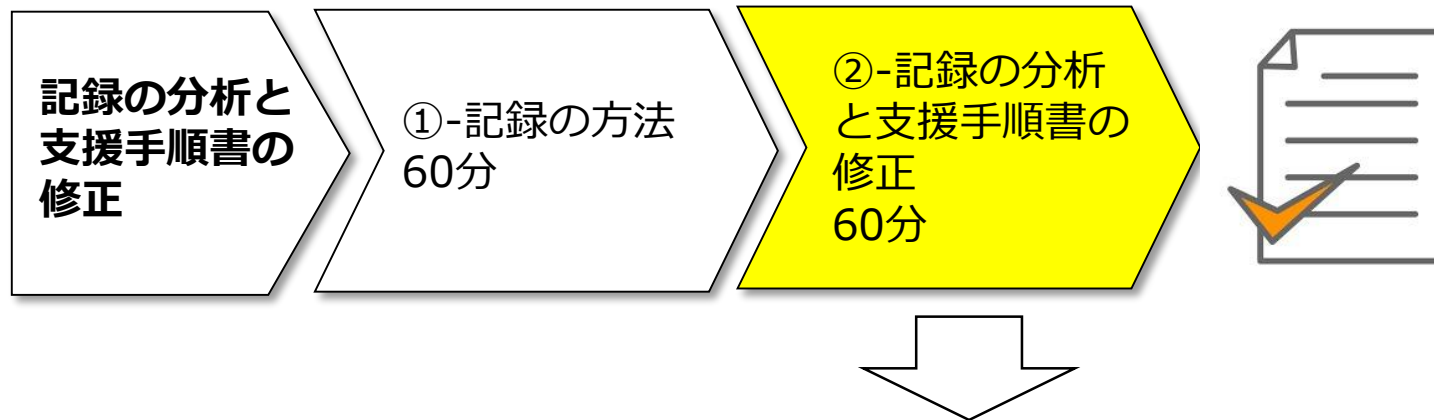
# 演習 5

## 記録の分析と支援手順書の修正

### ②-記録の分析と支援手順書の修正

# 演習の流れ





## i) 支援手順書の修正

- 支援手順書の記録の確認
- 支援の修正の方向性
- 支援の振り返りシートへの記入
- 支援手順書の修正

## **i ) 支援手順書の修正**

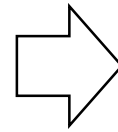
# 支援手順書の記録の確認

支援手順書に沿って支援を実施した際の、本人のそれぞれの行動について、記録に基づいて確認する。

ヘルパーステーション〇〇〇			
利用者氏名：S・Tさん			
支援手順書 兼 記録用紙			
日付：〇〇年〇〇日 記入者：〇〇			
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備		スケジュールカード、台紙の準備 お金の準備 カバンの準備	
予定を確認する	予定を聞く（見る） カバンを背負う 出発する	カードを見せながら読みあげ、台紙に貼っていく。 セブンイレブンで買うものをカードで提示して台紙に貼る。 パウダームで食べるものをカードで選択してもらい台紙に貼る。 スケジュールを確認したらカバンを渡す。	
公園に移動する	公園まで歩く	ブランコのカードを渡して持ってもらう。 ヘルパーは車道側を歩く。 公園に着いたら持っているカードを台紙のボックスに入れてもらう。	
ブランコに乗る	ブランコのところに行く ブランコに乗る 出発する	ブランコに乗られている間は近く立って見守り。 終了1分前にタイマーをセットする。 タイマーがなったら本人に止めてもらう。 次の予定を見せて、ヘルパーが読み上げながら確認してもらう。	
セブンイレブンに移動する	セブンイレブンまで歩く	セブンイレブンと買う物のカードを渡して持ってもらう。 ヘルパーは車道側を歩く。 セブンイレブンについたら持っているカードを台紙のボックスに入れてもらう。	
商品を選ぶ	店内に入る カゴを持つ 商品のところに行く 商品をカゴに入れる	店内に入ったらヘルパーでカゴを指差しで示して本人に持ってもらう。 店内ではヘルパーが前を歩いて誘導する。 購入する商品をヘルパーで指差しで示してカゴに入れてもらう。	
購入する	カゴを置く お金を渡す おつりとレシートを受け取る 商品を受け取る 出発する	カゴを置く場所をヘルパーで指差しで示して置いてもらう。 お金を本人に渡して払ってもらおう。 おつりとレシートを本人に受け取ってもらい、ヘルパーに渡してもらう。 本人に商品を受け取ってもらい、ヘルパーに渡してもらう。 ヘルパーで商品をカバンに入れる。	

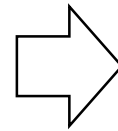


1. 自立して取り組める。  
期待した成果がでて  
いる。



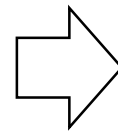
支援を継続する。  
生活の中で広げていく。

2. 少し手助けが必要。  
十分ではないが成果  
がでている。



支援内容を分析し、より  
効果的な支援を検討する。  
より自立できるよう手直  
しする。

3. 全くできない。  
成果がでない。



支援を見直す。  
構造化や介助の度合いを  
上げる。

それぞれの行動ごとに見ていくことで、  
手直しのポイントがつかみやすい

# 支援の修正の方向性

# 記録に基づく振り返りのポイント

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 支援することで、期待された効果があったか 例：自傷行為が減る、自立して活動に取り組める</li></ul>
本人の理解	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 支援の内容や使用したツールについてご本人の理解 例：カードの意味がわかる、選択ができるなど</li></ul>
本人や家族の納得の度合い	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 支援についてご本人や家族の納得の度合い</li></ul>
実施のスムーズさ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画に沿って支援現場で継続して実施できているか</li></ul>
支援者の関わり方	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ご本人への教授の仕方、促しかた、フェードアウト</li></ul>
その他観察できた特性	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 支援の中で観察できたご本人の特性 例：終わりがわかると集中できる、情報が多いと混乱しやすい</li></ul>

# 支援の修正の方向性

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・プラスの成果を踏まえて支援のステップアップの検討する。</li><li>・マイナスの成果を踏まえて支援を修正する。</li><li>・本人の自閉症の特性やスキルを再確認する。</li></ul>
本人の理解	<ul style="list-style-type: none"><li>・本人の理解度に合わせたツールを使用する。</li><li>・本人が理解しやすい環境設定をする。</li></ul>
本人や家族の納得の度合い	<ul style="list-style-type: none"><li>・本人、家族のニーズを再確認する。</li><li>・家庭と事業所の認識の違いを埋める。</li></ul>
実施のスムーズさ	<ul style="list-style-type: none"><li>・必要な時間に支援者を確保する。</li><li>・タイムスケジュールを見直す。</li><li>・必要に応じて上長に相談する。</li></ul>
支援者の関わり方	<ul style="list-style-type: none"><li>・支援手順書の内容を周知徹底する。</li><li>・過干渉になっていないか再確認する。</li><li>・本人の特性やスキルに合わせた伝え方の再確認。</li></ul>
その他観察できた特性	<ul style="list-style-type: none"><li>・観察できた行動、特性を今後の支援に活用する。</li></ul>

**(参考)**

## **「スキルの確認（スキルの評価）」**

支援が本人の実際のスキルと合っているかを、  
普段関わっているスタッフが短時間に現場で  
実施できるインフォーマルアセスメントです。

# スキルの確認の例

## ○コミュニケーション（受信・発信）について

- ・言葉がどのくらい理解できているか
- ・嫌なときなどの表現の仕方
- ・活動の選択ができるか など

## ○認知について

- ・活動のやり方やルールを理解できているか
- ・スケジュールやタイマーなどの意味を理解できているか
- ・どのような視覚情報だと理解できるか
- ・文字、数字、色、矢印 など

## ○取り組み方について

- ・支援者の指示や手助けについての理解
- ・課題や指示には前向きに応じられるか など

## 手直しする際の留意点

「行動が改善されたので支援をやめる・・・」

- ・ 自閉症の特性は変わらない、支援をやめることで元の状態に戻りやすい（時間差がある場合も）。
- ・ 本人の学習の度合いや変化を踏まえ慎重に検討を。
- ・ 特性を踏まえより生活に合った形に。

# 手直しする際の留意点

「自立しないといけない・・・」

- すべての活動を自立して取り組むことが難しい人もいる。
- 支援を受けながら、できる部分は自立する。
- 自閉症の人は疲れやすい人も多い。本人にかかる負荷にも注意。



# 支援手順書をより良いものに

「支援を広げる」

- うまくいった内容を他の場面に広げていく。
- 特定の支援者から複数の支援者が関われるように。
- アセスメントできた特性や手順を活かす。
- より自立できるように。

支援の目的は強度行動障害が減ることだけでなく、地域社会で豊かに暮らせること

# 「支援の振り返りシート」の記入



今回は、グループで行います

「グループワーク用支援の振り返りシート」 A3

日付：〇〇年〇〇日 記入者：〇〇

利用者指名：STさん

## 支援の振り返りシート

	振り返り	修正の方向性
成果		
ご本人の理解		
ご本人や家族の納得の度合い	記載できないところは空欄	
実施のスムーズさ		
支援者の関わり方		
その他観察できた特性		

# 支援手順書の修正



今回は、グループで行います  
**「グループワーク用  
 STさん支援手順書修正用」 A3**

1. 支援の振り返りシートへの記入
2. 記入した1を見ながら、支援手順書を修正  
 ※修正用の支援手順書に修正点を書き込みます。
3. 発表
  - 支援の振り返りシートの内容
  - 支援手順書の修正内容

ヘルパーステーション〇〇〇

利用者氏名：STさん

支援手順書 兼 記録用紙

日付：〇〇年〇〇日 記入者：〇〇

スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備		スケジュールカード、自紙の準備 お金の準備 カゴの準備	
予定を確認する	予定を聞く（見る） カバンを背負う 出発する	カードを見ながら読みあげ、自紙に貼っていく。 セブンイレブンで買うものをカードで提示して自紙に貼る。 パワードームで買えるものをカードで提示してもらい自紙に貼る。 スケジュールを確認したらカバンを渡す。	
公園に移動する	公園まで歩く	ブランコのカードを渡して持ってもらう。 ヘルパーは車道側を歩く。 公園にいったら持っているカードを自紙のボックスに入れてもらう。	
ブランコに乗る	ブランコのところに行く ブランコに乗る 出発する	ブランコに乗られている間は遠くまで立って見守り。 必ず1分前にタイマーをセットする。 タイマーがなったら本人に促してもらおう。 次の予定を見せ、ヘルパーが読み上げながら確認してもらおう。	
セブンイレブンに移動する	セブンイレブンまで歩く	セブンイレブンの買う物のカードを渡して持ってもらう。 ヘルパーは車道側を歩く。 セブンイレブンについていたら持っているカードを自紙のボックスに入れてもらう。	
商品を選ぶ	店内に入る カゴを持つ 商品のところに行く 商品をカゴに入れる	店内に入ったらヘルパーでカゴを指差しで示して本人に持ってもらおう。 店内ではヘルパーが前を歩いて誘導する。 購入する商品をヘルパーで指差しで示してカゴに入れてもらう。	
購入する	カゴを置く お金を渡す おつりとレシートを受け取る 商品を受け取る 出発する	カゴを置く場所をヘルパーで指差しで示して置てもらおう。 お金を本人に渡して持ってもらおう。 おつりとレシートを本人に受け取ってもらい、ヘルパーに渡してもらおう。 本人に商品を受け取ってもらい、ヘルパーに渡してもらおう。 ヘルパーで商品をおつりに入れる。 次の予定を見せ、ヘルパーが読み上げながら確認してもらおう。	
パワードームに移動する	パワードームまで歩く	パワードームのカードを渡して持ってもらう。 ヘルパーは車道側を歩く。 パワードームについていたら持っているカードを自紙のボックスに入れてもらう。	
購入する	店内に入る 注文する お金を渡す おつりとレシートを受け取る 商品を受け取る	店内ではヘルパーが前を歩いて誘導する。 あらかじめ読んでいた商品名をヘルパーで注文する。 お金を本人に渡して持ってもらおう。 おつりとレシートを本人に受け取ってもらい、ヘルパーに渡してもらおう。 商品をヘルパーで指差しで示して本人に持ってもらおう。	

# まとめの講義

1. 強度行動障害が現れている方への支援は、アセスメントに基づいた本人の障害特性を理解して、**根拠**のある支援を組み立てることが基本です。
2. 強度行動障害が現れている方への支援は、支援者が**統一**した支援をすることが重要。そのために支援手順書を作成する必要があります。

# まとめの講義

3. 支援手順書に基づいた支援を振り返り、改善していくことが重要です。PDCAのサイクルでより良い支援の実施を目指します。
4. 職員のために強度行動障害を改善することが目的ではなく、本人の生活の質が上がることが大切です。